令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」

事業報告書

令和3年2月

公益財団法人 笹川スポーツ財団

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験) 「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」 事業報告書

目次

本事業の目的	1
1. 本事業の実施概要	2
(1) 本事業のターゲット	2
(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因(事業実施前の仮説)	3
(3) 本事業で期待される効果	5
2. 本事業の実施内容	7
(1) 事業の実施概要	7
(2) 事業の実施結果	9
3. 本事業の実施体制	23
(1)本事業の実施体制	23
(2) 本事業の実施スキーム	23
4. 事業の実施効果 (スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果)	24
(1)効果検証方法	24
(2)効果検証の結果	25
5. スポーツ実施改善の要因の分析(阻害要因や促進要因の仮説検証)	29
6. 本事業から得られた波及効果	32
7. 今後の事業展開予定	33
(1)事業継続や横展開に向けたポイント、課題	33
(2)次年度以降の事業継続、横展開の計画	33
(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組	33
8. 終わりに	35
参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細	36

本事業の目的

本事業は、スポーツ参画人口の拡大に向けて、Sport in Life コンソーシアム加盟団体が連携・協働して実施する取り組みを後押しするとともに、先進事例を形成することにより、全国各地にスポーツ参画人口の拡大に向けた取組を展開するためのモデルを創出することを目的に実施したものである。

本事業の実証フィールドである宮城県角田市では、2019 年にオープンした「道の駅かく だ」を賑わいの交流拠点施設と位置づけ、隣接する角田中央公園をはじめとするスポーツ施 設一帯「かくだスポーツビレッジ」と連携し、ヘルスツーリズム・スポーツツーリズムの展 開をはかるなどスポーツを通じたまちづくりを推進している。角田市および同市教育委員 会は、2019 年 4 月に笹川スポーツ財団と連携協定を結び、新たな地域スポーツ運営組織「ス ポーツネットワークかくだ」(以下、スポネットかくだ)を設立した。スポネットかくだは、 同市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、地域振興公社、スポーツ 推進委員協議会、公共施設指定管理者、ベガルダ仙台レディース角田ホームゲーム協議会、 道の駅かくだ運営会社、仙台大学の9団体で構成され、構成団体及び地域が抱えるスポーツ に関する課題を解決し、明るく楽しく活力あふれたまちづくりを行うことを目指している。 スポネットかくだが令和元年度に実施した「健康スポーツ懇談会」では、健康スポーツに 関する各年代の優先的に解決すべき課題を協議した。なかでも、幼少期から運動を楽しむ習 慣の定着は、その後のライフステージにおいても運動・スポーツへの親近感を高める効果が 期待できることから、幼児・未就学児を第一優先のターゲットに定めた。この際、共有され た幼児期の運動・スポーツにおける課題は、「昔と比べ運動をしない子、苦手な子が多く小 学校以前の幼児期に二極化がみられる」「運動が苦手な子には丁寧な指導が必要で時間をか けて楽しみのある内容が求められる」「スポーツに親しむ家庭環境の醸成」「日常の遊びにお いて身体を動かす機会の減少、保護者が過度に怪我を恐れる風潮がある」の 4 点が掲げら れ、これらの解決に向けて Sport in Life 事業のもと「かくだ版アクティブ・チャイルド・プ ログラム」に取り組み、阻害要因や促進要因の仮説検証とともに、実施頻度や実施意欲の改 善を目的とした。

1. 本事業の実施概要

(1) 本事業のターゲット

本事業では、子どものうち、主に保育施設へ通う未就学児(0~5 歳児)をメインのターゲットとする。また、それら未就学児が継続的に運動・スポーツに親しむ環境づくりを見据え、その保護者や幼稚園教諭・保育士に対する講習会を実施するため、広義にはこれらの成人もターゲットとなる。

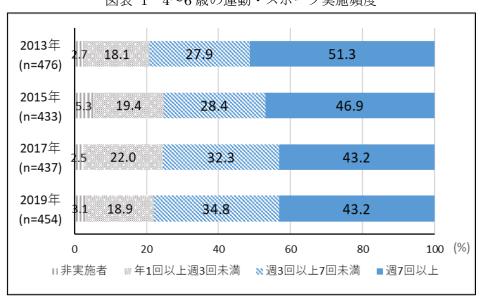
本事業では、宮城県角田市を実証フィールドとし、角田市内の保育所・幼稚園等に通う4・5歳児クラス(5歳児クラスには6歳児も在籍)の園児を主なターゲットとする。 未就学児の運動・スポーツ習慣は保護者の意向や家庭での生活習慣の影響も大きいと考えられていることから、保育施設に通う子どもの保護者や保育現場で働く幼稚園教諭・保育士、スポーツ指導者などに対しても調査を実施する【事業①】。

さらに、乳幼児健診を受診する 3~5 か月児、1 歳児、2 歳半の乳幼児とその保護者を対象に産後の母親向けの運動講座、乳幼児向けの運動あそび講座を実施し参加した親子を対象に調査を行う【事業②】。子育て支援センター・スポーツ交流館で開催する親子運動あそび講座に参加した 3~12 か月児、1~2 歳児、3 歳~未就学児とその保護者をターゲットに調査を実施する【事業③】。

(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因(事業実施前の仮説)

【4~6歳の幼児のスポーツ実施を妨げている要因】

本事業で主なターゲットとしている 4~6歳(保育現場における5歳児クラスには6歳児も在籍)の未就学児の体を動かす頻度、時間は文部科学省の「幼児期運動指針」において、「毎日、合計60分以上」を目安として示されている。しかし、全国調査におけるスポーツ実施頻度は、図表1の通り、2013年以降、「週7回以上」の高頻度群で51.3%から43.2%へ減少している。同調査報告書によると、4~6歳のスポーツ実施頻度が低下している要因として、未就学児は小学生よりも実施頻度の多い者と少ない者の差が大きい、つまり運動・スポーツの実施頻度の多い子どもと少ない子どもに分かれる傾向を指摘している。



図表 1 4~6歳の運動・スポーツ実施頻度

(出所) 笹川スポーツ財団 (2013~2019年) 「4~11歳のスポーツライフに関する調査」

本事業の実証フィールドである角田市において、子どもの運動・スポーツ活動に関わる ステークホルダーによる懇話会を開催し幼児期の課題を整理したところ、市内未就学児 のスポーツ実施の阻害要因(仮説)は下記の4点に集約された。

- ✓ 昔と比べ運動をしない子、苦手な子が多く小学校以前の幼児期に二極化がみられる
- ✓ 運動が苦手な子には丁寧な指導が必要で時間をかけて楽しみのある内容が求められる
- ✓ スポーツに親しむ家庭環境の醸成
- ✓ 日常の遊びにおいて身体を動かす機会の減少、保護者が過度に怪我を恐れる風潮がある

また、このうち「スポーツに親しむ家庭環境の醸成」については、本事業で同時にター

ゲットとしている未就学児の保護者世代における運動・スポーツへの関心低下、非実施傾向への意識改善が求められる。通園通学での自家用車送迎により身体活動への意識低下や、ひとり親世帯の増加による親子の時間の減少などが実施を妨げる要因として考えられる。

(3) 本事業で期待される効果

【①保育現場での運動あそび出前講座へ参加した子どもへの期待される効果】

本事業では市内4つの保育現場で4・5歳児クラスを対象とした運動あそび出前講座を 実施し、運動あそびに親しみや興味関心を持ってもらうとともに、受講後に子どもとその 保護者に質問紙調査を実施し、運動あそびの実施意欲の向上や嗜好度合い、習慣化に向け た検証を行う。

期待される効果は下記の通り。

- (1) 運動・スポーツ・運動あそびへの関心や意識の向上 参加した7割の子どもが運動やスポーツ・運動あそびが好きになる。
- (2) 運動・スポーツ・運動あそびの行動変容 参加した5割の子どもの運動・スポーツ・運動あそびの実施時間が増加

【②乳幼児健診に参加した子どもとその保護者への期待される効果】

本事業では乳幼児健診に参加した子どもとその保護者が一緒にできる親子運動あそび 講座を実施し、市内の乳幼児親子へ発達段階に応じた適切な運動の情報発信をするとと もに、運動体験の場を提供する。受講後に保護者向けに質問紙調査を行い運動あそびへの 意識向上や心身に対するポジティブな変化を測る。

期待される効果は下記の通り。

(1) 運動あそびへの意識向上

参加した 7 割の保護者が、運動・スポーツに対する意識の向上や運動あそびの重要性 を認識する

(2) 心身に対するポジティブな変化

1~2歳児の7割の保護者が、親子で身体を動かすことに前向きな意識をもつ。

【③子育て支援センター・スポーツ交流館での運動あそび講座に参加した子どもとその 保護者への期待される効果】

本事業では希望者が自由に参加できる「アクティブ・チャイルド・プログラム」運動あ そび教室を定期開催する。参加した子どもの保護者を対象に質問紙調査を実施し、子ども が家庭で身体を動かす様子の変化や、保護者自身の運動スポーツへの意識の高まりにつ いて検証を行う。

期待される効果は下記の通り。

- (1) 子どもが家庭で身体を動かす様子の変化 参加した3割の子どもの家庭で、保護者と一緒に身体を動かす機会が増える。
- (2) 保護者自身の運動スポーツへの意識の高まり

参加した5割の保護者が、意識して子どもと一緒に遊ぶ機会が増える。

スポーツ実施の 阻害要因/促進要因

実施内容

期待される効果

運動しない子、苦手な子が多い 幼児期の二極化

①運動市内4~

①運動あそび出前講座の実施 市内4つの保育施設で実施

①運動あそびへの関心や意識の向上と行動変容

・講座を通して運動あそびのお もしろさに気づいてもらい積極 的に取り組む姿勢を育む

苦手な子への丁寧な指導 楽しみのある内容の提供 ①保育者向け研修会の実施 運動あそびプログラムの提供

> ②運動・スポーツへの意識向上 と心身に対するポジティブな変 ル

化 ・親子運動あそびの重要性や効 果を認識し、身体を動かすこと

スポーツに親しむ家庭環境の醸 成

②保護者向けの講座の実施 ・産後ママ向けの運動メニュー の提供 ・親子でできる運動あそびメ

果を認識し、身体を動かすこと に前向きな意識を持つ

日常の中での身体を動かす機会 の減少

ニューの提供 ③親子運動あそび講座の実施 ③子どもの家庭で様子の変化や 保護者自身の意識の高まり ・家庭での親子運動あそびの習 慣化や保護者が意識的に子ども

と遊ぶ機会の増加

保護者の過度な怪我への恐れ

・自宅で簡単に取り組める親子 運動あそびの紹介

2. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

【未就学児(0~5歳児)を対象とした事業】

宮城県角田市において、幼児期における身体活動・運動面での課題解決、幼児の生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成を目的に、発達段階に応じた適切な身体活動・運動(からだを動かすことや遊び)を提供する講習会・出前講座(「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」)を実施する。市内の幼稚園、保育所、認定こども園等(以下、「保育現場」)での開催を予定することから、保育現場に通う幼児(未就学児)が対象となる。幼稚園、保育所等では先生向けの研修会と出前講座を、乳幼児健診とスポーツ交流館では、乳幼児親子への運動あそび講座を展開し、身体活動・運動の定着化を図る。

具体的な事業の実施内容は下記の通り。

事業① 幼稚園、保育所、認定こども園等の場を活用した事業

・市内保育現場の教諭・保育士を対象に運動あそびについての研修会を開催

研修会は市内すべての保育現場の教諭・保育士を対象に開催する。具体的には、乳幼児期から運動あそびに積極的に取り組む効果や、保育現場において、子どもたちが主体的に遊ぶために必要な要素、社会性を育む運動あそびについての座学を実施する。その後、運動あそび体験プログラムを行い、保育現場での活用を目指す。

・保育現場で実践できる「アクティブ・チャイルド・プログラム」運動あそび出前講座 (4・5 歳児クラス対象)の実施

対象:中島保育所 68 人 角田光の子保育園 55 人 ミネ幼稚園 89 人、 なかよしこどもえん 39 人 計 251 人

運動あそび出前講座では、保育現場それぞれの環境により問題意識は異なるため、対象となる保育施設において事前に打ち合わせを行い、専門的な見地から保育現場の環境にあった内容を検討し、各施設 2~3 回の講座を実施する。

研修会および出前講座には、仙台大学より原田健次教授(子ども運動教育学科)に講師 を依頼する。

本事業では角田市内のスポーツ実施を妨げている要因として挙げられる、「運動が苦手な子には丁寧な指導が必要で時間をかけて楽しみのある内容が求められる」という課題に対し、保育者の養成や情報の共有による保育現場における指導の質の向上を目指す。また、「昔と比べ運動をしない子、苦手な子が多く小学校以前の幼児期に二極化がみられる」という課題に対し、運動あそび出前講座の実施により、子どもたちが運動あそびに対し親しみや興味関心を持ち、日常の運動あそび実施時間の増加に繋がるきっかけづくりとなることが期待される。

事業② 乳幼児健診の場を活用した事業

乳幼児健診時を活用した運動あそび講座を実施し、市内の乳幼児親子へ発達段階に応じた適切な運動の情報発信をするとともに、運動体験の場を提供する。

- \cdot 「 $3\sim5$ か月健診」(対象:30人) での「産後ママのボディケア講座」実施
- ・「1 歳おたんじょう相談」(53 人)「2 歳 6 か月児歯科検診」 (55 人)での「運動あそび講座」実施

事業③ 子育て支援センター・スポーツ交流館での運動あそび講座開催

希望者が自由に参加できる「アクティブ・チャイルド・プログラム」運動あそび教室の定期開催

対象:3~12 か月児「赤ちゃんママのプチ講座」 各回 10 組

1~2歳児「親子でニコニコ体操」 各回10組(1日2回実施)

3歳~未就学児「親子運動あそび」 各回10組

事業②、事業③では角田市内の未就学児のスポーツ実施阻害要因として挙げられる「スポーツに親しむ家庭環境の醸成」「日常の遊びにおいて身体を動かす機会の減少、保護者が過度に怪我を恐れる風潮がある」といった課題に対し、幼少期から運動あそびに取り組む効果の理解促進や、講座を通して親子で身体を動かすことへの前向きな意識の変化、家庭での運動あそびの習慣化に繋がるきっかけとなることが期待される。

本事業の新規性、特徴

角田市における子どもを対象とした運動・スポーツ振興事業は、教育委員会生涯学習課スポーツ振興係、市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等が推進してきたが、未就学児をターゲットとした定期的な教室・講習会事業はなく、本実証実験が同市において新規性の高いものであるといえる。

また角田市および市教育委員会は、2019 年 4 月に笹川スポーツ財団と連携協定を結び、新たな地域スポーツ運営組織(スポーツネットワークかくだ)を設立した。本事業は、スポーツネットワークかくだを構成する 9 団体(市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、地域振興公社、スポーツ推進委員協議会、公共施設指定管理者、ベガルダ仙台レディース角田ホームゲーム協議会、道の駅かくだ運営会社、仙台大学)で子どもの運動・スポーツ環境の改善を議論し、その解決のため市子育て支援課や保育現場も主体的に関わる市内関係団体が横断的に連携して実施される点も特徴的といえる。

(2) 事業の実施結果

事業①保育現場における「運動あそび出前講座」の実施に向けた幼稚園教諭・保育士向け 研修会

角田市内の保育現場教諭・保育士等を対象に運動あそび研修会を実施。

名称	令和2年度 乳幼児における運動あそび研修会			
開催日時	令和2年9月19日(土)			
開催場所	角田市民センター田園ホール			
アジェンダ	(1) 開会・あいさつ			
	(2) 開催趣旨の説明			
	かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラムの概要			
	(3)研修			
	①講和(約60分): 乳幼児期における運動あそびについて			
	(講師:仙台大学 子ども運動教育学科 教授 原田健次氏)			
	②運動あそび体験(約 40 分):			
	具体的な運動あそび(4・5 歳児)について~子どもたちみんな			
	が楽しく主体的に身体を動かして遊ぶ「運動あそび」の具体的			
	な方法について~			
	③講和:まとめ			
	④質疑応答			
	⑤今後について:保育現場への出前講座(現地研修)			
	⑥閉会			
参加者概要	角田市内の保育現場教諭・保育士等 26人			
	角田市内のスポーツ関係者 11人			
	角田市子育て支援課職員 5人			
	角田市生涯学習課 5人 計47人			

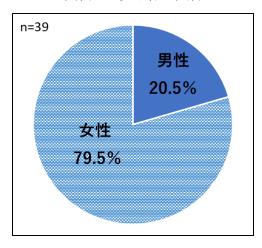
・当日の様子研修会の様子



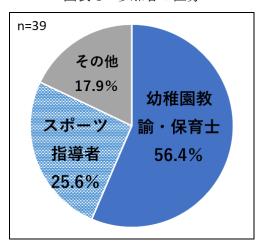


参加者の属性は下図表の通り。参加者の性別は、男性 20.5%、女性 79.5%と女性が約 8 割を占めた(図表 2)。その背景は、図表 3 の通り、参加者の半数(56.4%)を「幼稚園教諭・保育士」であったためである。他の参加者の区分は、「スポーツ指導者」が 25.6%、「その他」が 17.9%で、その他には行政職員が含まれる。

図表 2 参加者の性別



図表3 参加者の区分



事業①保育現場における「運動あそび出前講座」の実施

保育現場と行政との調整により、実施保育施設を中島保育所、角田光の子保育園、なかよしこどもえん、ミネ幼稚園の4カ所に決定した。対象は4・5歳児クラスで、4園合計で251人である。

また、保育現場ごとの方針や問題意識を丁寧に理解するため、保育施設の教員と運動あそび講座の講師による事前打合せを設定し、各所での「アクティブ・チャイルド・プログラム」の内容をディスカッションした。運動あそび講座後も教員主導で実施できることや、子どもの興味を想像して、「関所破り」「ジャンケンおに」「しっぽとりあそび」「メチャビー(ボールとりあそび)」「サーキットあそび」が運動あそび講座のプログラムに選定された。それぞれのプログラムの内容は下記の通り。

・「関所破り」

長方形の枠の中に鬼のいる関所(枠)を2か所設け、鬼にタッチされないように関所を ジャンプで渡り、枠の端から端までを通り抜けるあそび。関所で鬼にタッチされたり端 までクリアした場合は、スタート地点に戻り繰り返し行う。

- ・「ジャンケンおに」
 - 2 チームにわかれ、相手チームの子にタッチしたらジャンケンを行い、負けた方はその場に座る。座っている子に味方がタッチすると再度参加できる。
- ・「しっぽとりあそび」

決められた枠の中で相手が腰にぶら下げた紐の「しっぽ」を取るあそび。しっぽを取ったら枠の外に置く。しっぽを取られた子は枠の外に出て、しっぽを付けなおし自分のタイミングで再度参加できる。

- ・「メチャビー (ボールとりあそび)」
 - 2 チームにわかれボールを取ったら自分のチームのマットにラグビーのようにトライするあそび。ボールを持った子が倒れたらボールを離す、服を引っ張ってはいけないなどのルールを設定。
- ・「サーキットあそび」

跳び箱、鉄棒、平均台、ボール投げなど複数の動きを順番に行う。

これらのプログラムを複数回体験した後、参加した子どもとその保護者に対するアンケート調査を実施し、運動・スポーツ習慣や意欲の変化を測った。

なお、企画提案時には各保育現場で 3 回の運動あそび講座の実施を想定していたが、 本事業が 2020 年度途中の決定であったため既存保育授業・行事と講師の日程調整を要 し、なかよしこどもえん以外の 3 園では講座実施が 2 回に留まった。

【各保育施設での実施概要】

実施保育施設	中島保育所		
4 2 + 6 - 12 /	事前打合せ: 10/15(木)		
	第1回:11/2(月)/4 歳児クラス 予定 36 人/実績 36 人参加		
実施日/	5 歳児クラス 予定 32 人/実績 32 人参加		
参加人数	第 2 回:1/22(金)/4 歳児クラス 予定 36 人/実績 36 人参加		
	5 歳児クラス 予定 32 人/実績 32 人参加		
字坛番目	第 1 回 : 「関所破り」 (4・5 歳児)		
実施種目	第 2 回:「ジャンケンおに」($4\cdot 5$ 歳児)		
	・第1回		
	▶ 子どもたちにはルールが難しいようにも思えたが、想定以上に子		
	どもたちが動けていたのと、終盤には自分たちで作戦を考える姿		
古光の行りに	が見られた		
事業の振り返	▶ ルールを理解しないままはじめても、何回かトライするうちに、ま		
り(担任教員のコメント)	わりを見ながらルールを覚えていた。		
	・第2回		
	▶ やっていく中でルールを理解し始めていった		
	▶ 同じあそびを繰り返し行うことの大切さを感じた。子どもたちが		
	いろいろと考え、感じながら行っていたのが印象的		

・当日の様子

11/2「関所破り」



1/22「ジャンケンおに」



実施保育施設	角田光の子保育園		
	事前打合せ:10/22(木)		
実施日/ 参加人数	第1回: 11/16(月) /4 歳児クラス 予定 29 人/実績 29 人参加		
	5 歳児クラス 予定 26 人/実績 26 人参加		
多加八数	第 2 回: 12/14(月) /4 歳児クラス 予定 29 人/実績 29 人参加		
	5 歳児クラス 予定 26 人/実績 26 人参加		
実施種目	第1回:「しっぽとりあそび」(4歳児)、「ボールとりあそび」(5歳児)		
	第 2 回:「関所破り」(4 歳児)、「ボールとりあそび」(5 歳児)		
	・第1回		
	▶ 初めはルールのあるあそびが難しく感じる子もいたが、進んで行		
	う子を真似しながらあそびの輪が全体に広がっていった。日頃の		
	保育でも取り入れたい。		
事業の振り返	▶ ボールを奪ったり持ったら相手をガードする中で、子どもたちが		
り(担任教員	「感情をむき出し」にして取り組む姿を初めて見た。全力で力を		
のコメント)	ぶつけあうことは大事な経験だと感じた。		
	・第2回		
	▶ やるにつれ、子どもたちが周りの様子を見ながらルールを理解し		
	ていった		
	▶ 前回より「自分がボールをとる」という積極的な姿勢が全員にあ		
	った		

・当日の様子

11/16「ボールとりあそび」



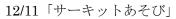
12/14「関所破り」



実施保育施設	ミネ幼稚園		
	事前打合せ:10/22(木)		
実施日/	第1回:10/29(木) /4 歳児クラス 予定 47 人/実績 48 人参加		
	5 歳児クラス 予定 42 人/実績 41 人参加		
参加人数	第2回:12/11(金)/4 歳児クラス 予定 47 人/実績 48 人参加		
	5 歳児クラス 予定 42 人/実績 41 人参加		
字坛廷日	第1回:「サーキットあそび」(4・5歳児)		
実施種目	第2回:「サーキットあそび」(4・5歳児)		
	・第1回		
	▶ 運動が得意な子も、得意でない子も自分のレベルにあった内容で		
事業の作りに	いろいろな種目に取り組めた。		
事業の振り返りは、	▶ 最後には全員が楽しんで取り組んでいることに驚いた		
り(担任教員のコメント)	・第2回		
	▶ 1回目はいろいろな動きを楽しんで、2回目は楽しいのひとつ上、		
	こわいけどやってみたいという雰囲気になってきた。		
	▶ 支援が必要な子も、周りの雰囲気に溶け込んでいた		

・当日の様子

10/29「サーキットあそび」







実施保育施設	なかよしこどもえん		
	事前打合せ:10/29(木)		
	第1回:11/30(月) /4 歳児クラス 予定 20 人/実績 18 人参加		
実施日/	5 歳児クラス 予定 19 人/実績 17 人参加		
参加人数	第2回:1/15(金) /4 歳児クラス 予定 20 人/実績 18 人参加		
<i>参加八</i> 数	5 歳児クラス 予定 19 人/実績 17 人参加		
	第 3 回:1/19(火) /4 歳児クラス 予定 20 人/実績 18 人参加		
	5 歳児クラス 予定 19 人/実績 17 人参加		
	第1回:「関所破り」(4・5 歳児)		
実施種目	第2回:「関所破り」(4歳児)、「メチャビー (ボールとりあそび)」(5		
天 心性口	歳児)		
	第3回:「しっぽとりあそび」(4歳児)、「メチャビー」(5歳児)		
	・第1回		
	▶ ルールをやりながら覚えていくという雰囲気作りは勉強になっ		
	た。子どもたちもルールがわかってくると目が輝き、後半はさら		
事業の振り返	に集中してあそんでいた		
り(担任教員	・第2回		
	♪ うまく鬼をかわせない子にタイミングを見て声がけして助ける		
のコメント)	子もいて成長を感じた (関所破り)		
	・第3回		
	▶ しっぽとりあそびもルールを聞いてからすぐに楽しんでいたの		
	でおどろいた		

・当日の様子 1/19「関所破り」

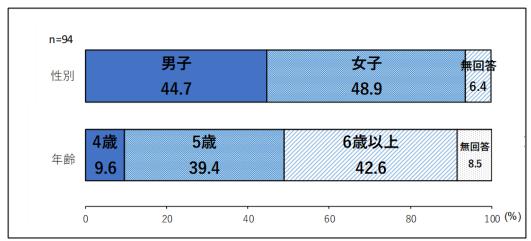


1/19「メチャビー」



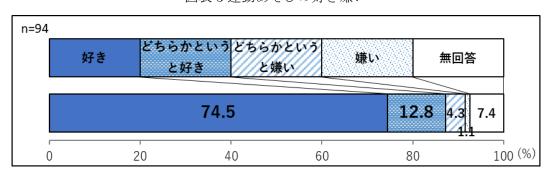
【事業①:参加者の属性】

運動あそび出前講座に参加した園児の年齢構成比は、「4 歳」9.6%「5 歳」39.4%、「6 歳以上」42.6%であった(図表 4)。本事業の対象である 5 歳児クラスでは、実施後のアンケート調査時に 6 歳になっていた子どもが多く、「6 歳以上」の割合が最も多くなった。性別は、男子が 44.7%、女子が 48.9%であった。



図表 4 対象者の年齢と性別

講座に参加した子どもに運動・スポーツ・運動あそびが好きかたずねたところ、「好き」が 74.5% 「どちらかというと好き」が 12.8%、合計 87.3%が『好き』と回答した(図表 5)。



図表5運動あそびの好き嫌い

事業② 乳幼児検診の場を活用した事業

角田市が実施する乳幼児健診の待機時間を活用し、乳幼児親子を対象とした家庭でできる「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」の周知啓発と「運動あそび」(1歳おたんじょうび相談、2歳6か月健診受診者対象)「産後ママのボディケア」(3~5か月健診受診者対象)プチ講座を実施した。

「運動あそび」プチ講座では月齢によりできる動きも異なるため、参加した子どもの様子を見ながら、配布したリーフレットに掲載されている「親子ジャンプ」やバンダナを用いたひっぱりあいやキャッチボールなどを実践した。

「産後ママのボティケア」プチ講座では、子どもをおなかに乗せながらできるストレッチや寝返りができるころの動きなど子ども成長段階に合わせたプログラムを実施した。

対象の健診	① 1 歳おたんじょうび相談 ② $3\sim5$ か月児健診 ③ 2 歳 6 か月健診			
	① 1歳おたんじょうび相談			
	11/13(金) 予定 31 組 62 人/実績 12 組 24 人の親子が参加			
	1/29(木) 予定 15 組 30 人/実績 6 組 12 人の親子が参加			
	② 3~5 か月児健診 11/18(水) 予定 15 組 30 人/実績 14 組 28 人の親子が参加 1/27(水) 予定 22 組 44 人/実績 13 組 26 人の親子が参加			
実施日/				
参加人数				
③ 2歳6か月健診				
	11/25(水) 予定 21 組 42 人/実績 6 組 12 人の親子が参加			
	12/16(水) 予定 19 組 38 人/実績 19 組 38 人の親子が参加			
	1/20(水) 予定 15 組 30 人/実績 12 組 24 人の親子が参加			
実施内容	各年齢を対象とした親子ふれあい体操リーフレットをもとに、参加者			
美胞 的谷	の様子を見ながら実施内容を選択			
	プチ講座の提供と合わせて、講座参加により保護者自身の身体や心に			
効果検証方法	変化を感じたか、運動やスポーツなど体を動かすことに対する意欲の			
	変化について、参加した保護者を対象にアンケートを実施(詳細は後			
	述)。			

・当日の様子

①1歳おたんじょうび相談での親子運動あそび

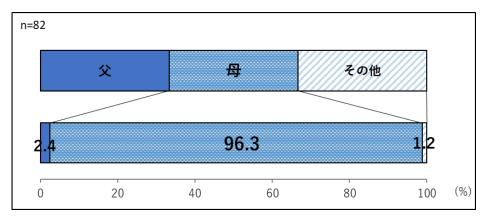


③2歳6か月健診での運動あそび



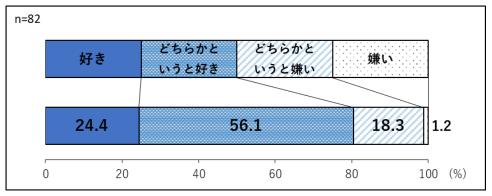
【事業②:参加者の属性】

講座に参加した子どもとの続柄は「父」2.4%「母」96.3%「その他」1.2%とほとんどが母親であった(図表 6)。講座に参加した保護者の運動・スポーツの好嫌度は、「好き」24.4%「どちらかというと好き」56.1%を合わせると『好き』が80.5%と全体の5分の4を占める。一方「どちらかというと嫌い」は18.3%「嫌い」は1.2%であった(図表 7)。



図表 6 講座に参加した子どものとの続柄





事業③ 子育て支援センター・スポーツ交流館での運動あそび講座開催

角田市内の子育て支援センター、スポーツ交流館で行っている開放事業の場を活用し、 希望者が自由に参加できる親子運動あそび講座を定期的に開催する。

3~12 か月児「赤ちゃんママのプチ運動講座」では産後の母親の身体のケアを目的に、 肩こりや腰痛に効く動きや赤ちゃんと一緒にできるストレッチなどを中心に行った。1~ 2 歳児「親子でニコニコ体操」ではバンダナを使いながら親子でできる運動あそびなど親 子で触れ合いながら行えるプログラムを実施した。3 歳~未就学児「親子運動あそび」で は、「親子ストレッチ」「親子トンネルくぐり」など親子で協力しながら行う種目や「リズ ムあそび」などのプログラムを展開した。

開催講座	$①3\sim12$ か月児「赤ちゃんママのプチ運動講座」	
	②1~2 歳児「親子でニコニコ体操」	
	③3歳~未就学児「親子運動あそび」	
	① 「赤ちゃんママのプチ運動講座」を実施	
	第 1 回 10/7(水) : 予定 10 組 20 人/実績 12 組 24 人	
	第 2 回 11/24(火): 予定 10 組 20 人/実績 12 組 24 人	
	第 3 回 12/2(水): 予定 10 組 20 人/実績 8 組 16 人	
実施日/	第 4 回 1/26(火):予定 10 組 20 人/実績 7 組 14 人	
	② 「親子でニコニコ体操」を実施	
	第 1 回 10/12(月) : 予定 20 組 40 人/実績 12 組 24 人	
	第 2 回 11/18(水): 予定 20 組 40 人/実績 7 組 14 人	
参加人数	第 3 回 12/16(水): 予定 20 組 40 人/実績 6 組 12 人	
	第 4 回 1/20(水): 予定 20 組 40 人/実績 8 組 16 人	
	③ 「親子運動あそび」を実施	
	第 1 回 10/12(月): 予定 10 組 20 人/実績 4 組 8 人	
	第 2 回 11/17(火): 予定 10 組 20 人/実績 5 組 10 人	
	第 3 回 12/15(火): 予定 10 組 20 人/実績 3 組 7 人	
	第 4 回 1/19(火):予定 10 組 20 人/実績 3 組 7 人	
実施内容	各年齢を対象とした親子ふれあい体操リーフレットをもとに、参加者	
夫 爬內谷	の様子を見ながら実施内容を選択	
効果検証方法	講座に参加した子どもの保護者を対象に、家庭での子どもの運動あそ	
	びの様子の変化や保護者自身の運動・スポーツに対する行動や意識の	
	変化についてアンケート調査を実施(詳細は後述)。	

・当日の様子

赤ちゃんママのプチ運動講座(3~12か月児)

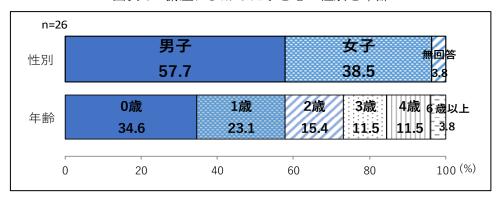


親子でニコニコ体操($1\sim2$ 歳児)



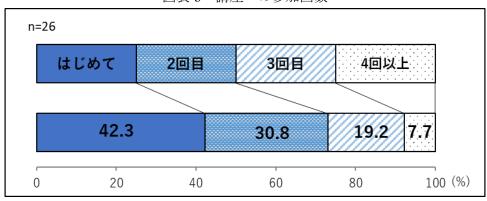
【事業③:参加者の属性】

講座に参加した子どもの性別は「男子」57.7%「女子」38.5%と男子の参加者が多い(図表 8)。年齢は、低い年齢ほど割合が高く、「0歳」34.6%、「1歳」23.1%、「2歳」15.4%、「3歳」11.5%、「4歳」11.5%「6歳以上」3.8%であった。

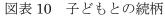


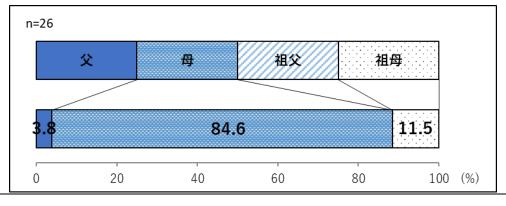
図表8 講座に参加した子どもの性別と年齢

運動あそび講座への参加は、「はじめて」が 42.3%で最も多く、「2 回目」が 30.8%、「3 回目」が 19.2%、「4 回以上」が 7.7%であった(図表 9)。運動あそび講座に参加した子どもとの続柄は「母」が 84.6%で大半を占め、次いで「祖母」が 11.5%であった。「父」は 3.8%と少ない(図表 10)。



図表 9 講座への参加回数





3. 本事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記の通り。

実証フィールド	宮城県角田市	
代表団体	公益財団法人 笹川スポーツ財団*	
構成団体	NPO 法人スポーツコミュニケーションかくだ、角田市教育委員会、ス	
	ポーツネットワークかくだ	
構成団体以外の	角田市子育て支援課、中島保育所、角田光の子保育園、なかよしこども	
参画団体	えん、ミネ幼稚園	

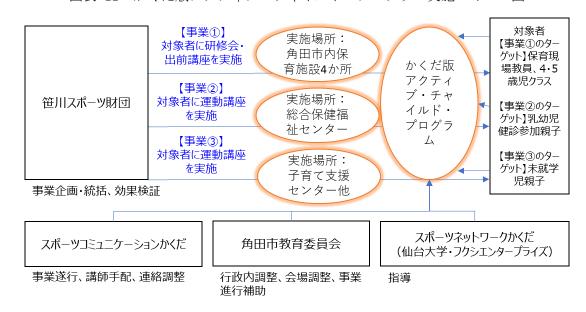
^{※ 「*」}は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

(2) 本事業の実施スキーム

本事業における代表団体、構成団体、その他参画団体の役割は下記の通り。

笹川スポーツ財団は、事業全体の企画立案と統括、各事業の効果検証を行う。スポーツコミュニケーションかくだ、角田市教育委員会、スポーツネットワークかくだの 3 団体は、「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」の実施にあたり協同でプログラム内容を考案し事業遂行を図る。また、事業①~③において、スポーツコミュニケーションかくだは実施現場での事業運営管理、講師・指導者の手配、保育現場との連絡調整を担い、角田市教育委員会は行政内他部署(子育て支援課・健康長寿課等)との調整や公共施設利用など事業運営の全般的な補助、スポーツネットワークかくだは主に指導・指導補助を担当する。

図表 11 かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム実施スキーム図



4. 事業の実施効果 (スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果)

(1) 効果検証方法

【未就学児(0~5歳児)への運動あそび講座実施効果】

角田市内の未就学児(0~5歳児)に対して実施した事業の効果を検証するために、未就学児と保護者に対しては市内 4 つの保育現場で行われた運動あそび出前講座後と子育て支援センター・スポーツ交流館での親子運動あそび講座後にアンケート調査を行い、運動・スポーツ・運動あそびの実施頻度や時間の増加、運動あそびへの関心、実施への意欲、行動変容に関する効果検証を行う。幼稚園教諭・保育士、スポーツ指導者に対しては、保育現場での運動あそび出前講座実施後にアンケート調査を行い、保育現場に運動あそびを取り入れる(継続する)意欲や子どもの様子の変化をたずね、効果検証を行う。

期待される効果と検証方法は下記の通り。

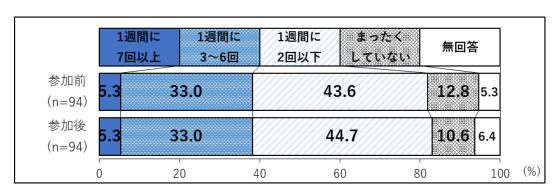
図表 12 期待される効果と検証方法

ターゲット	期待される効果	検証方法
未就学児	・運動・スポーツ・運動あそび の実施頻度や時間の増加 ・運動あそびへの関心や意欲 の向上と行動変容	保育現場で行った運動あそび出前講座に 参加した子どもとその保護者へのアンケート調査の中で、出前講座参加前後の運動あそびの実施頻度や時間、関心や意欲 の変化を分析する。
幼稚園教 論・保育 士、スポー ツ指導者	・保育現場での運動あそびの継続的導入	研修会直後と運動あそび出前講座実施後 にアンケート調査を実施し、保育現場で の運動あそび継続の意欲や保育者から見 た子どもの様子の変化から効果検証を行 う。
保護者	・子どもとの運動あそびに対する意識の変化や心身に対するポジティブな変化・保護者自身の運動・スポーツへの意識の高まり	乳幼児健診時の運動あそび講座、子育て 支援センターなどでの運動あそび講座に 参加した保護者を対象にアンケート調査 を行い、受講後の家庭での子どもとの運 動機会の増加や保護者自身の意識、行動 の変化を分析する。

(2) 効果検証の結果

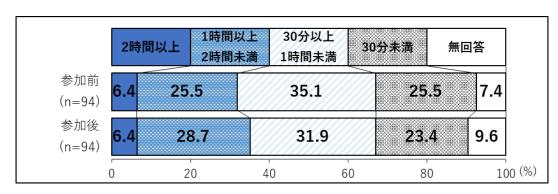
【未就学児への実施効果】

運動あそび出前講座参加前後の運動・スポーツ・運動あそびの実施頻度をみると、「1週間に7回以上」5.3%と「1週間に3 \sim 6回」33.0%には変化はみられず、「1週間に2回以下」は43.6%から44.7%に増加、「まったくしていない」は12.8%から10.6%に減少した(図表13)。1日当たりの実施時間は「1時間以上2時間未満」が25.5%から28.7%に増加、「30分以上1時間未満」は35.1%から31.9%に減少した(図表14)。参加前後で実施頻度に変化はほとんどみられなかったが、実施時間には増加傾向がみられた。しかし、50%の子どもの実施時間が増加するという数値目標は達成できず、行動変容に至るまでの過程の検証や今後のプログラム展開が課題として挙げられる。



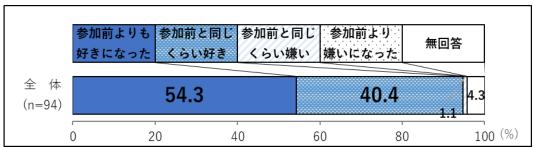
図表 13 参加前後の実施頻度





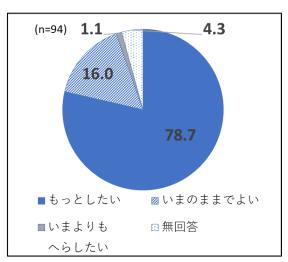
運動あそび出前講座は、参加した園児のうち 70%が運動・スポーツ・運動あそびを好きになるようなプログラムの提供を目標に取り組み、図表 15 に示したように、「参加前よりも好きになった」 54.3%、「参加前と同じくらい好き」 40.4%、合計 94.7%が好きになったと回答した。また、意欲の変化については 78.7%が運動あそびを「もっとしたい」と回答し、意欲の増加が確認された(図表 16)。

運動あそび出前講座の実施は参加した園児の気持ちの変化や意欲の増加に対する効果が確認された。



図表 15 参加後の運動あそびに対する気持ちの変化

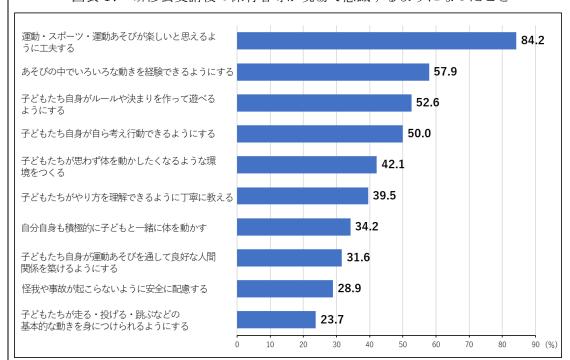




【幼稚園教諭・保育士、スポーツ指導者への実施効果】

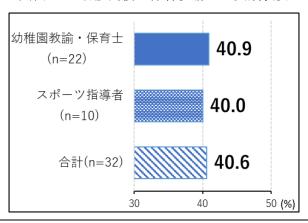
研修会に参加した保育者等に受講後に現場で意識するようになったことをたずねたところ、「運動・スポーツ・運動あそびが楽しいと思えるように工夫する」84.2%が最も高く、「あそびの中でいろいろな動きを経験できるようにする」57.9%と続く(図表 17)。

子どもの実施率向上には保育者等による「楽しみのある内容の提供」は促進要因のひとつと考えられているため、研修会実施は保育者等に意識の変化をもたらし課題解決に向けた効果を確認できた。さらに、研修会で学んだ内容を保育現場で実践した保育者等は40.6%であった(図表 18)。



図表 17 研修会受講後の保育者等が現場で意識するようになったこと

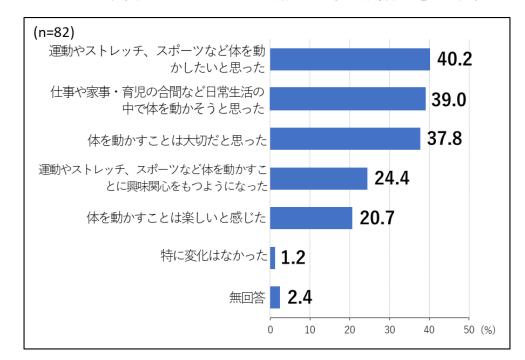




【保護者への実施効果】

乳幼児健診時の運動あそび講座は参加した保護者の 70%が運動・スポーツに対する意識の向上や運動あそびの重要性を認識できるようなプログラムの展開を図り、図表 19 に示した通り、96.3%に意識の変化が見られた。内容別には、「運動やストレッチ、スポーツなど体を動かしたいと思った」40.2%が最も高く、「仕事や家事・育児の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った」39.0%と続く。

親子運動あそび講座の実施は保護者の運動・スポーツに対する意識の変化をもたらし、 今後の運動・スポーツ実施のきっかけのひとつになったと考えられる。



図表 19 乳幼児健診時の運動あそび講座参加後の保護者の意識の変化

5. スポーツ実施改善の要因の分析(阻害要因や促進要因の仮説検証)

【未就学児におけるスポーツ実施改善の要因の分析】

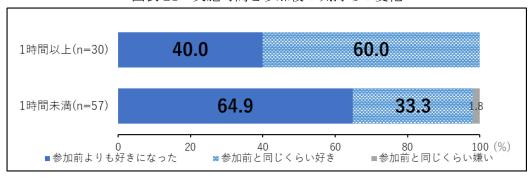
運動あそび出前講座参加前の1日の運動あそび実施時間が「30分以上1時間未満」「30分未満」(1時間未満)と回答した園児のうち、82.5%が、参加後に運動あそびを「もっとしたい」と回答した(図表 20)。また「参加前より好きになった」は64.9%と1時間以上の園児より高く、1日の運動時間が少ない園児に対して効果が大きいと考えられる(図表 21)。

未就学児においては、「運動をしない子、苦手な子が多く小学校以前の幼児期に二極化」が阻害要因と考えられていたが、保育現場での運動あそび出前講座の実施は、実施頻度の増加など行動変容まではいたらなかったものの、意欲や気持ちの変化に効果がみられ継続的な実施が阻害要因の改善につながると考えられる。



図表 20 実施時間と参加後の意欲



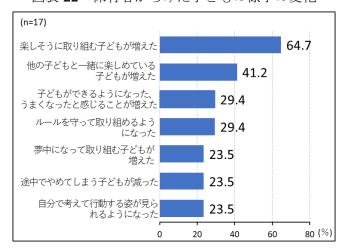


【幼稚園教諭・保育士、スポーツ指導者におけるスポーツ実施改善の要因の分析】

保育者から見た出前講座参加後の子どもの運動あそびをする様子の変化では「楽しそうに取り組む子どもが増えた」64.7%が最も高く、「他の子どもと一緒に楽しめている子どもが増えた」41.2%と続く(図表 22)。子どもたちに対して楽しみのある内容の提供は促進要因のひとつと考えられている点からも、出前講座の実施が子どもたちに運動あそびの楽しさを享受するきっかけになったと考えられる。

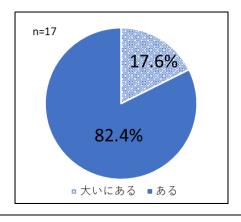
出前講座実施園の保育者に今後の運動あそび継続の意欲をたずねたところ、「大いにある」17.6%、「ある」82.4%と全員が現場での運動あそび継続の意欲を示している(図表23)。出前講座実施後も継続して運動あそびを行った園では、子どもたちだけで講座内で実施した運動あそびができるようになるなど、継続して取り組んだ効果も確認された。

本事業の実施は、促進要因である「楽しみのある内容」の提供につながり、さらに保育者の意識・意欲の変化は、保育現場での運動あそびの継続的な提供を後押しし、子どもたちの運動あそびの機会を促進する要因につながったと考えられる。



図表 22 保育者からみた子どもの様子の変化

図表 23 現場での継続の意欲

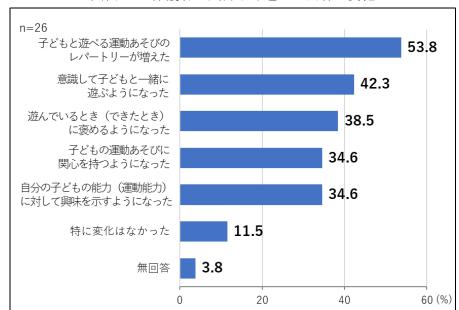


【保護者におけるスポーツ実施改善の要因の分析】

子育て支援センター・スポーツ交流館での親子運動あそび講座に参加した保護者の気持ちの変化において、「子どもと遊べる運動あそびのレパートリーが増えた」53.8%が最も高く、「意識して子どもと遊ぶようになった」42.3%と続く(図表 24)。

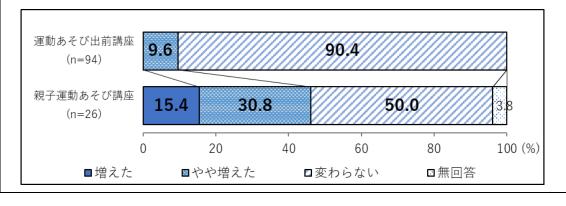
また、保育現場での運動あそび出前講座に参加した 30%の子どもの家庭で、家族と一緒に遊ぶ機会増加を数値目標としたものの、図表 25 に示したように、9.6%の増加にとどまった。一方、子育て支援センターなどでの親子運動あそび講座参加者は「増えた」15.4%「やや増えた」30.8%、合計 46.2%であった(図表 25)。

親子での運動あそび講座の参加は、家庭での親子あそびを促進するきっかけとなり、子どもの運動あそび実施の機会増加につながった。



図表 24 保護者の気持ちや遊びの内容の変化

図表 25 講座参加後の子どもが家族と運動する機会



6. 本事業から得られた波及効果

本事業から得られた波及効果としては、保育関係者とスポーツ関係者の連携が挙げられる。日常的にはそれぞれのフィールドでの課題解決に向き合い活動しているが、本事業での「子どもの運動不足や運動習慣の改善」「保護者の意識改革」は両者に共通する問題意識であり、具体的な事業を協働することにより連携強化が図られ、今後の運動・スポーツ事業での協力体制づくりのきっかけとなった。所謂、コレクティブインパクトの手法が根付けば、運動・スポーツに限らず、角田市内における他の社会課題に対しても同様に協働の推進体制が築きやすくなると期待する。

7. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

本事業での研修会・各種講座の実施により、メインターゲットである未就学児をはじめ、保育者等、保護者の運動・スポーツ・運動あそびの実施時間の増加や嗜好性の向上に一定の効果が確認された。このうち保育者等や保護者の意識・意欲の変化は、保育現場での運動あそびの継続的な提供、家庭で子どもと一緒に遊ぶ機会の増加を後押しし、結果的に子どもの運動あそび実施の機会を促進する要因につながった。また、運動あそび講座実施園での事前/事後ヒアリングや親子運動あそび講座開始前の身体の状態チェックなど、講座参加者のニーズ把握を通じたプログラム展開を図り促進要因の向上に努めた。

一方で、委託期間中の各事業の実施回数の調整が困難だったこともあり、日常的に運動あ そびを継続するような行動変容に至ったかを評価するためには、引き続きの事業展開やフ ォローアップが必要となる。

また、市内他保育所への事業報告会等を通じた周知により、出前講座受け入れ保育所数の 増加が期待できる。ただし、出前講座で実施するアクティブ・チャイルド・プログラムを総 合的にプロデュース・指導できる人材の確保は課題である。

(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

2019年9月に設立したスポーツネットワークかくだでは、スポーツ関係団体が集まり市内スポーツ環境の課題を共有・整理している。そこでは、「明るく楽しく健康で活力あるまちづくり」を将来ビジョンに、スポーツを楽しむ人をどれだけ増やすかにつき優先的に課題解決することとし、今後の重点的な取り組みのひとつに幼少期のスポーツ環境の充実が掲げられた。首長、教育長からもスポーツまちづくりにおいて方向性に同意を得られており、スポーツ団体のほか、子育て支援課、健康長寿課などとも連携しさまざまなステークホルダーが参画する地域スポーツ運営組織として事業展開が始まったところである。本実証実験は、次年度はスポーツネットワークかくだによる自主事業としての実施が確定し、市内実施箇所の拡充を検討・調整中である。また、行政による将来的な予算措置も併せて検討中である。

また、2020 年 11 月には宮城県議会が「運動あそび出前講座」を視察し、県内の他自治体での事業展開に関心が高まっている。

(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取り組み

本事業は、第 2 期スポーツ基本計画に掲げる数値目標の中でも重要なスポーツ実施率を達成するための施策であり、且つ実証実験のエビデンスに基づく施策形成のモデルとなりうるため、国の委託事業としての継続に期待したい。また、事業の性格上、複数年度に渡っての事業展開によりはじめて効果が検証できるものもあるため、例えばスポーツ庁の他委託事業でも採用されているように、単年度の事業レビューを必須としながら複数年に渡る契約を前提とした事業を組み立てることにより、経年の事業実施における成果をフォロー

アップできる仕組みを構築いただきたい。

将来的にスポーツ庁として委託事業が継続できない、または終了する場合、単一の事業体ではスポーツ実施率向上に繋がる事業展開には限界があることから、地域におけるステークホルダーの役割分担による事業実施例の紹介や、Sport in Life コンソーシアムに参画する民間企業等がスポンサーとなり事業継続や拡大展開を支えるようなプラットフォーム(あるいはマッチングの場)形成を構想いただきたい。

加えて、スポーツ庁の委託事業として一度でも採択された事業は、委託事業終了後に自主事業として実施する際、Sport in Life コンソーシアムや中央幹事会が同事業を Sport in Life 推進プロジェクトの一事業である旨を、例えばスポーツエールカンパニーの認定のようにオーソライズし、社会的な認知が高まるような継続支援が望まれる。

8. 終わりに

本事業の実施により、角田市内の未就学児や保育者等、保護者を対象とした研修会や運動 あそび講座が、運動・スポーツに対する意欲の向上や意識の変化にポジティブな影響を与え たことが確認された点や、次年度に自主事業として継続する点は前項の記述の通りである。

一方、事業展開にあたっては、事業の企画提案から委託事業者としての決定、それら事務手続きに並行した実証フィールドとの調整等と非常にタイトなスケジュールであったことから、事業開始後も各所における講座回数の再検討や日程調整を繰り返しながらの実施となった。講座回数については、当初の事業計画では「運動あそび出前講座」を実施する保育施設4園において各3回(計12回)を予定したが、保育現場に寄り添い各園の状況を把握した上での実施を目指し、各園での実施予定日初日を保育教員と運動あそび出前講座講師による情報交換・講座への理解を深める打合せとした。そのため、2回目以降の日程をスライドするなどして調整を試みたが、本事業の実施が年度途中からの開始であり、保育現場等の年間スケジュールの優先が前提となることからも、4園中3園でプログラム実施が2回に留まった。ただ、事前打合せが奏功しプログラムは充実した内容となり、回数減においても各回の満足度は高いものとなった。日程調整については、1月に入り講師の要望から当初予定日からの変更があったが、保育現場の協力もありスムーズに解決した。

これらの調整は、保育現場と講師の連絡調整をはじめとする角田市内での事業運営を委託した総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニケーションかくだ」のリーダーシップにより滞りなく進められたと考える。新型コロナウイルス感染症の拡大により、現地への状況調査も予定回数に満たなかったものの、複数年に渡り培った同クラブ及び角田市教育委員会と当財団の信頼関係に基づく連絡・相談により、頻繁に情報を共有できたことが事業遂行を大いに支えた。なお、同感染症へは十分な配慮をした上で実施しており、コロナ禍を理由に事業運営が難航することはなかった。また、寒冷地であり冬季の実施には健康面への心配はあったが、参加した子どもたちは寒さを感じさせず運動あそびを楽しんだ様子だった。

参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細

アンケート調査票・分析結果詳細

1. 幼稚園教諭・保育士向け研修会参加者への調査票

回収率:83.0% (39/47人)

	研修会参加者 調査票		
Q 1	あなたの年齢と性別を教えてください。		
	年齢:()歳		
	性別: 1 男性 2 女性 3 答えたくない		
Q2	あなたの職業を教えてください。また通算で何年働いていますか。		
	職 業: 1 幼稚園教論・保育士 2 スポーツ指導者 3 その他()
	勤続年数:()年 ※1 年未満の方は 0 年とお答えください		
Q3	あなたは、研修会に参加してから保育現場やスポーツ指導の場等で幼児に運動	めを教える	際にどの
	ようなことを意識するようになりましたか。(Oはいくつでも)		
1	運動・スポーツ・運動あそびが楽しいと思えるように工夫する		
2	子どもたちがやり方を理解できるように丁寧に教える		
3	子どもたちが走る・投げる・跳ぶなどの基本的な動きを身につけられるようにする		
4	あそびの中でいろいろな動きを経験できるようにする		
5	子どもたちが思わず体を動かしたくなるような環境をつくる		
6	子どもたち自身がルールや決まりを作って遊べるようにする		
7	子どもたち自身が自ら考え行動できるようにする		
8	子どもたち自身が運動あそびを通して良好な人間関係を築けるようにする		
9	自分自身も積極的に子どもと一緒に体を動かす		
10	怪我や事故が起こらないように安全に配慮する		
11	その他(具体的に:)	
12	特に意識していることはない		
Q 4	あなたは、研修会に参加した後、その内容を保育現場やスポーツ指導の場で実	践しまし	たか。
1	はい 2 いいえ		
	ļ		
S	21 実践された方は、どのような内容を、何回行いましたか。また、主に何が	歳の子ども	を対象に
_	実践しましたか。		
	実 践 した 内 容	回数	年 齢
			藏
			-
		回	歳
		п	歳

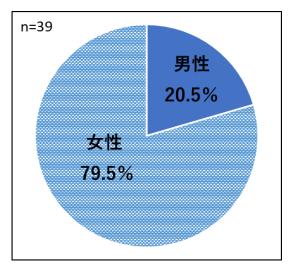
–Q	5~Q8は「運動あそび出前講座」が実施された中島保育所、角田光の子保育園、なか	よしこ
Ľŧ	えん、ミネ幼稚園の教員の方におうかがいします。その他の方はQ9へお進みください	—
Q 5	運動あそび出前講座への満足度をお答えください。(Oは1つ)	
1	満足 2 どちらかというと満足 3 どちらかというと不満 4 不満	
Q 6	あなたは運動あそび出前講座に参加して、子どもの「運動あそび」に対する考え方に変化が	がありま
	したか。(Oは1つ)	
1	大きく変わった 2 変わった 3 少し変わった 4 変わらない	
Q 7	あなたは運動あそび出前講座に参加して、今後も保育現場で継続する意欲はありますか。	
	(Oは1つ)	
1	大いにある 2 ある 3 あまりない 4 ない	
0.8	子どもたちが運動あそび出前講座を受けてから、運動あそびをする様子に変化は見られま	1 1-10
Q U	(〇はいくつでも)	O IZM's
1	自分で考えて行動する姿が見られるようになった	
3	楽しそうに取り組む子どもが増えた	
4	夢中になって取り組む子どもが増えた	
5	子どもができるようになった、うまくなったと感じることが増えた	
6	ルールを守って取り組めるようになった	
7	他の子どもと一緒に楽しめている子どもが増えた	
8	その他(具体的に:)	
9	特に変化は見られなかった	
	におうかがいします	
Q 9	研修会や運動あそび出前講座への参加や現場で運動あそびを実践し、今後の継続に向けて	ての課題
	や要望、お気づきの点などありましたらご自由にお書きください。	

アンケートは以上です。 ご多用中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【幼稚園教諭・保育士向け研修会参加者への調査結果詳細】

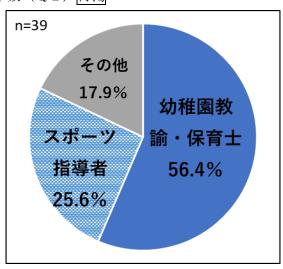
・年齢、性別(Q1) 再掲

年齢: 45.6 歳 (平均)



参加者の性別は、男性 20.5%、女性 79.5%と女性が約8割を占めた。

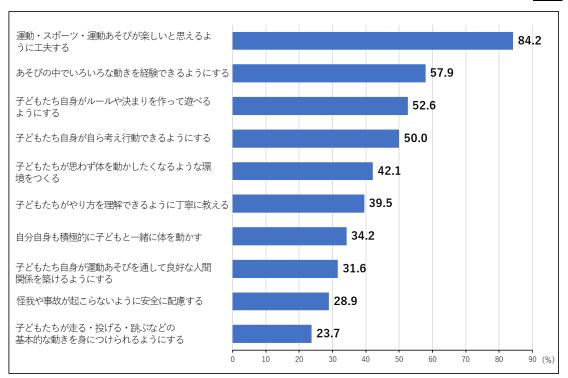
・職業(区分)、勤続年数(Q2) 再掲



勤続年数:17.0年(平均)

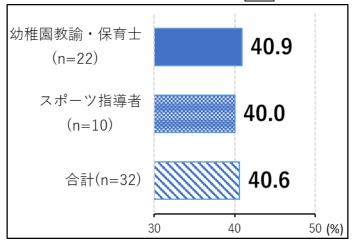
参加者の半数(56.4%)は「幼稚園教諭・保育士」であった。他の参加者の区分は、「スポーツ指導者」が 25.6%、「その他」が 17.9%で、その他には行政職員が含まれる。

・研修会参加後、保育現場やスポーツ指導の場で意識するようになったこと(Q3) 再掲



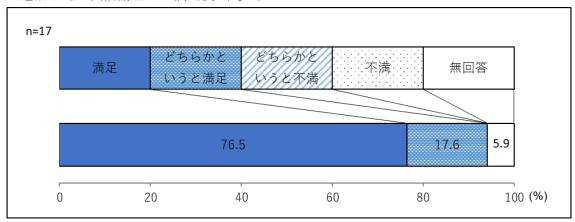
「運動・スポーツ・運動あそびが楽しいと思えるように工夫する」84.2%が最も高く、「あそびの中でいろいろな動きを経験できるようにする」57.9%、「子どもたち自身がルールや決まりを作って遊べるようにする」52.6%と続く。

・研修会で学んだ内容の保育現場での実践状況(Q4) 再掲



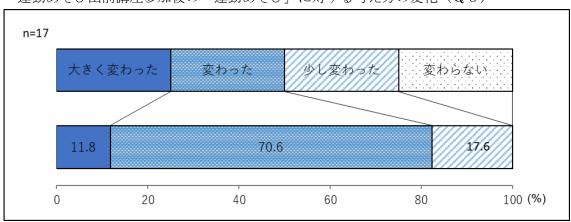
「幼稚園教諭・保育士」40.9%、「スポーツ指導者」40.0%、合計 40.6%が研修会で学んだ内容を保育現場等で実践した。

・運動あそび出前講座への満足度(Q5)



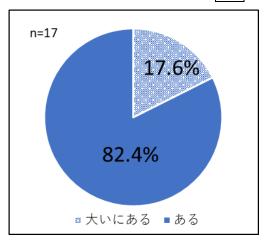
無回答 1 人 (5.9%) を除き全員が『満足』(「満足」76.5%、「どちらかというと満足」17.6% の合計)と回答した。

・運動あそび出前講座参加後の「運動あそび」に対する考え方の変化(Q6)



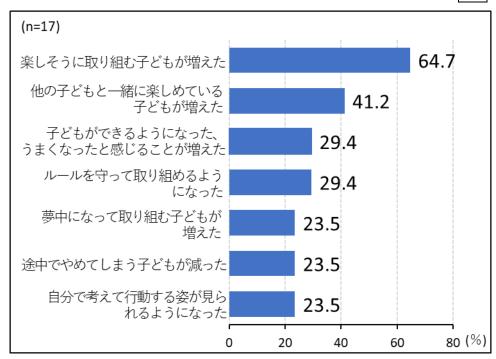
「大きく変わった」11.8%、「変わった」70.6%「少し変わった」17.6%と講座に参加した保育者全員に「運動あそび」に対する考え方の変化がみられた。

・保育現場における今後の運動あそびの継続意欲(Q7) 再掲



運動あそび出前講座に参加した保育士のうち、今後も保育現場で運動あそびを継続する意 欲が「大いにある」17.6%、「ある」82.4%と全員が継続の意欲を示した。

・運動あそび出前講座参加後の子どもの運動あそびをする様子の変化(Q8) 再掲



保育者から見た出前講座参加後の子どもの運動あそびをする様子の変化では「楽しそうに取り組む子どもが増えた」64.7%が最も高く、「他の子どもと一緒に楽しめている子どもが増えた」41.2%、「子どもができるようになった、うまくなったと感じることが増えた」「ルールを守って取り組めるようになった」が29.4%と続く。

2. 保育現場での運動あそび出前講座参加者への調査票

回収率:38.0% (94/247人)

お子様ご自身用

この部分は、保護者の方が、質問文と選択肢を読み上げながら、 お子様のお答えを、アンケート用紙へ書き写してください。

Q1 あなたの発齢と性別を数えてください。

幹辭:()) 畿

性別: 1 第 2 安 3 答えたくない

Q 2 あなたは、運動・スポーツ・運動あそびをするのは好きですか。(Oは 1つ)

4 好き
 2 どちらかというと好き
 3 どちらかというときらい

4 きらい

Q3 あなたは、運動あそび出前講座に参加する前、(保育所・幼稚園等の体質の接着の接着が成立のできます。) 運動・ス ポーツ・運動あそびをどれくらいしていましたか。また 1日に平均でどれくらいしていましたか。(O はそれぞれ1つずつ)

運動・スポーツをした首藪		1日あたりの学筠時間		
1	1週間に7回以上	1	2時間以上	
2	1週間に3~6回	2	1時間以上2時間未満	
3	1適簡に2間以予	3	30芬以上1時商業牆	
4	まったくしていない	4	30芬未満	

Q4 あなたは、運動あそび出前講座に参加した後、(保育所・幼稚園等の体質の接受業以外で)運動・ス ポーツ・運動あそびをどれくらいしていますか。また 1日に空勤でどれくらいしていますか。(Oは それぞれ1つずつ)

運動・スポーツをしている回数		1日あたりの平均時間		
1	1週間に7回以上	1 2時間以上		
2	1週間に3~6回	2 1時間以上2時間未満		
3	1週間に 2間以下	3 30芬以上1時商業満		
4	まったくしていない	4 30分未満		

- Q5 あなたは、蓮動あそび出情講座に参加して、蓮動やスポーツ・蓮動あそびをもっとしたいと思いま したか。(Oは1つ)

- 1 もっとしたい 2 いまのままでよい 3 いまよりもへらしたい
- Q6 あなたは、運動あそび出前講座に参加する前と後で、運動やスポーツ・運動あそびへの気持ちは変 わりましたか。(Oは1つ)
 - 1 参加請よりも好きになった
- 3 参加請と問じくらい嫌い
- 2 参加齢と簡じくらい好き
- 4 終加齢より嫌いになった
- Q7 あなたは、運動あそび出前講座にまた参加したいですか。(Oは1つ)
 - 1 参加したい 2 どちらかというと参加したい 3 どちらかというと参加したくない 4 参加したくない

1位() 2位() 3位()
1 からだを動かして		7 屋内で遊ぶ(ぬりえ、ブロック、パズルなど)	
2 鐘動・スポーツを	する	8 ゲーム機、スマートフォン、タブレット、パソコン	ンなどであそぶ
3 本を読む		9 10 3	
4 勉強をする		10 行もしない	
5 音楽をきく		11 その他①(具体的に:	
6 テレビ・DVD など	をみる	12 その他②(其体的に:	
9 あなたは運動	やスポーツ (警いごと	のスポーツもふくむ) についてどのように態し	こていますか。
なたが感じてい	ることをすべて選んで	?ください。(Oはいくつでも)	
	ので気持ちがいい	8 できないと恥ずかしい	
2 至羊にできる・		9 やる気が出ない	
3 うまくできない・		10 一緒にできる髪だちがいる	
	さるのがおもしろい	11 羌生やコーチにほめられる	
5 業い		12 发だちにほめられる	
6 疲れる	4141	13 その他(其体的に:	
- 10°50' 1-w - 1 10°	The same of the sa		
7 英敏することが	多い		
		:をしていますか。(Oはひとつ)	
10 あなたは、		:をしていますか。(Oはひとつ)	
10 あなたは、 1 している ↓	いま、なにか <mark>智いごと</mark> 2 していない		-0+-4
10 あなたは、 <u> している</u> ↓ SQ1 どのよう	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま	:をしていますか。(Oはひとつ) にすか。終の節からしている響いごとすべてに	こ○をつけてく
10 あなたは、 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O	いま、なにか <mark>響いごと</mark> 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも)	きすか。枠の中からしている響いごとすべてに	
10 あなたは、 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) (報表	ますか。 <mark>枠の節からしている智いごとすべてに</mark> をやチームスポーツ〉 〈競技以外のスポー	ーツ〉
10 あなたは、 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) (報表) 9 単	ますか。 <mark>終の節からしている智いごとすべてに</mark> をやチームスポーツ〉 〈議議以外のスポー 対議 17 米泳(スイミンク	ーツ〉
10 あなたは、 1 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O (学習や文化・雲 1 ピアノ 2 そろばん	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) (議員 9 単 10 サ	ますか。 終の節からしている 智いごとすべてに 後やチームスポーツ〉 〈議議以外のスポー 対議 17 宋禄(スイミンク ナッカー 18 パレエ	ーツ〉
10 あなたは、 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O	いま、なにかいごと 2 していない ないごとをしていま かはいくつでも) (議員) 9 単 10 サ	ますか。 <mark>終の節からしている智いごとすべてに</mark> 髪やチームスポーツ〉 〈鎌援以外のスポー 詳議 17	ーツ〉
10 あなたは、 1 している ↓ SQ1 どのよう さい。(O (学習や文化・芸 1 ピアノ 2 そろばん 3 習学 4 学習箋	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) 術) (議員 10 サ 11 / 12 ラ	ますか。 終の節からしている智いごとすべてに 後やチームスポーツ〉 〈鎌援以外のスポー 対策 17	ーツ〉
10 あなたは、 1 している ▼ SQ1 どのよう さい。(O 「学習や文化・芸 1 ピアノ 2 そろばん 3 習学 4 学習 5 絵画	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) (報) 9 単 10 サ 11 / 12 ラ 13 /	ますか。 終の節からしている智いごとすべてに 後やチームスポーツ〉 (課援以外のスポー 詳報 17	ーツ〉 プ)
10 あなたは、 1 している ▼ SQ 1 どのよう さい。(O 「学習や文化・芸 1 ピアノ 2 そろばん 3 習学 4 学習塾	いま、なにか響いごと 2 していない な響いごとをしていま)はいくつでも) 術) (議員 10 サ 11 / 12 ラ	ますか。 枠の 節からしている いごとすべてに をやチームスポーツ〉	ーツ〉 ア) ドップダンス・ジ
10 あなたは、 1 している ▼ SQ1 どのよう さい。(O 「学習や文化・芸 1 ピアノ 2 そろばん 3 習学 4 学習 5 絵画	いま、なにかいでいこと 2 していない ないことをしていま のはいくつでも) (課題) 10 サ 11 ク 12 ラ 13 ク 14 星	ますか。 粋の 節からしている いごとすべてに をやチームスポーツ〉	ーツ〉 ア) ドップダンス・ジ
110 あなたは、 1 している ▼ SQ1 どのよう さい。(O (学習や文化・芸 1 ピアノ 2 そろばん 3 習学 4 学習整 5 絵画 6 英公語	いま、なにかいごと 2 していない ないごとをしていま)はいくつでも) (議議) 9 単 10 サ 2 ラ 13 2 年 15 2 年 16 そ 16 そ	をすか。 終の節からしている智いごとすべてに 後やチームスポーツ〉 (課後以外のスポード 対象 17	ーツ〉 ア) ドップダンス・ジ

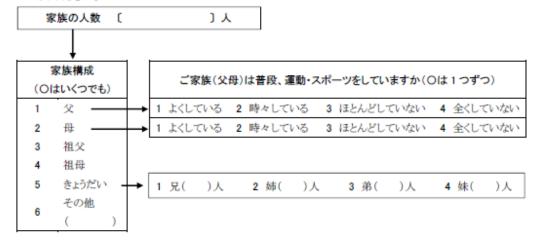
お子様ご自身への質問は以上です。ありがとうございました。

※のページは保護者の芳への質問です。

保護者用

- Q1 あなたは、この調査をお願いしたお子様からみて、次のどなたにあてはまりますか。(Oは1つ)
- 3 祖父 5 その他(具体的に: 1 父
- 2 母 4 祖母
- Q2 調査をお願いしたお子様の家族についておたずねします。

何人家族ですか。調査をお願いしたお子様を含めた、ご家族(世帯員)の人数をご記入ください。 また、家族構成についてお子様からみた続柄でお答えください。きょうだいがいる場合は人数もご記 入ください。



- Q3 調査をお願いしたお子様は、あなたご自身を含めご家族*と普段、運動・スポーツ・運動遊びをし ていますか。※お子様のきょうだいは除く(〇は1つ)
 - 1 よくしている
- 2 時々している
- 3 ほとんどしていない 4 まったくしていない
- Q4 調査をお願いしたお子様は、運動あそび出前講座に参加してから、あなたご自身を含めご家族**と 運動・スポーツ・運動遊びをする機会は増えましたか。※お子様のきょうだいは除く(○は1つ)
 - 1 増えた
- 2 やや増えた 3 変わらない 4 やや減った
- 5 減った

)

- Q5 調査をお願いしたお子様が運動あそび出前講座に参加してから、ご家庭でのお子様の運動あそび に関する様子に変化はありましたか。(〇はいくつでも)
 - 1 体を動かして遊ぶようになった
- 5 外で遊ぶようになった

できる動きが増えた

6 友達と一緒に遊ぶことが増えた

3 運動が上手になった

- 7 その他(具体的に:
- 4 楽しそうに体を動かすようになった
- 8 特に変化はなかった

	お子様が運動あそび出前講座に参加してから、あなたご自身は、ご家庭でお子様と一緒に遊ぶ際の 気持ちや、あそびの内容・あそび方について変化はありましたか。(〇はいくつでも)
1	意識して子どもと一緒に遊ぶようになった
2	子どもと遊べる運動あそびのレパートリーが増えた
3	自分の子どもの能力(運動能力)に対して興味を示すようになった
4	子どもの運動あそびに関心を持つようになった
5	遊んでいるとき(できたとき)に褒めるようになった

6 その他(具体的に:

7 特に変化はなかった

- Q7 お子様が運動あそび出前講座に参加してから、あなたご自身の運動・スポーツに対する行動や意識 に変化はありましたか。(Oはいくつでも)
 - 1 運動・スポーツをする機会が増えた
 - 2 運動・スポーツをしたいと思った
 - 3 運動・スポーツに興味関心をもつようになった
 - 4 仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かす機会が増えた
 - 5 仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った
 - 6 体を動かすことは大切だと思った
 - 7 体を動かすことは楽しいと感じた
 - 8 その他(具体的に:
 - 9 特に変化はなかった
- Q8 運動あそび出前講座に参加したお子様の様子をみて、今後も保育所・幼稚園等での運動あそび講座を継続してほしいと思いましたか。(Oは1つ)

またその理由があれば空欄にお書きください。(任意)

1	継続してほしい	理由:
2	どちらかというと継続してほしい	
3	どちらかというと継続しなくてよい	
4	継続しなくてよい	

Q9 あなたは、お子様の運動・スポーツについてどのような考えをお持ちですか。 (Oはそれぞれ1つずつ)

	そう思う	やや	あまりそう	そう思
		そう思う	思わない	わない
a 親子で一緒にからだを動かすことは大切である	1	2	3	4
b 子どもの運動・スポーツ機会を増やすためには親子で行うのがよい	1	2	3	4
c 運動や運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも体を動かす機会 をつくりたい	1	2	3	4
d 運動やスポーツ、運動あそびは専門の指導者に習うほうが良い	1	2	3	4
e 子どもと遊ぶのは疲れるので、あまり一緒にやりたくはない	1	2	3	4
f 運動をしなくても特に困ることはないので、意識してやる必要はない	1	2	3	4

- Q10 あなたは、お子様が運動やスポーツ・運動あそびをすること(はじめること)に何を期待していますか。(Oはいくつでも)
 - 1 運動することを楽しむ
 - いろいろな動きを身につける
 - 3 達成感を味わう
 - 4 体力をつける
 - 5 からだを動かす
 - 6 目標を見つけて頑張る
 - 7 運動能力を高める

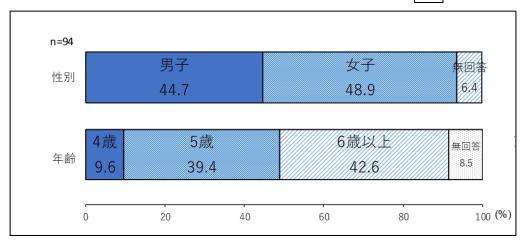
- 8 運動不足を解消する
- 9 友達をつくる
- 10 コミュニケーション能力を身につける
- 11 自分で考える力を身につける
- 12 何事にも意欲的に取り組む態度を養う
- 13 その他(具体的に:

アンケートは以上です。 ご多用中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

本調査票は、お配りした封筒(切手不要)にてアンケート用紙 受け取り後、1週間以内を目途に、 ご返信いただきますよう、お願い申し上げます。

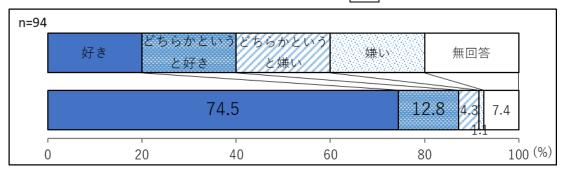
【保育現場での運動あそび出前講座参加者への調査結果詳細】

・運動あそび出前講座に参加した子どもの性別と年齢(Q1子ども) 再掲



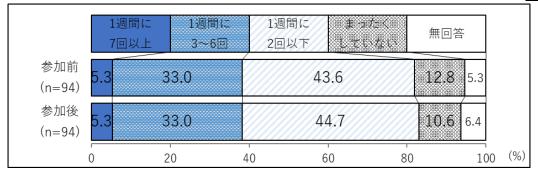
運動あそび出前講座に参加した園児の性別は、男子が 44.7%、女子が 48.9%であった。 年齢構成比は、 $\lceil 4$ 歳」 $\rceil 9.6\%$ $\lceil 5$ 歳」 $\rceil 39.4\%$ 、 $\lceil 6$ 歳以上」 $\rceil 42.6\%$ であった。

・運動・スポーツ・運動あそびの好嫌度(Q2子ども) 再掲



講座に参加した子どもに運動が好きかたずねたところ、「好き」が 74.5%、「どちらかというと好き」が 12.8%で、合計すると 87.3%が『好き』と回答した。

・運動あそび出前講座参加前後の運動・スポーツ・運動あそびの実施頻度(Q3、4子ども) <mark>再掲</mark>

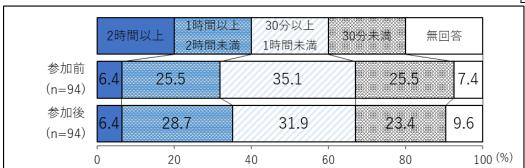


参加前の1週間の実施頻度は「1週間に2回以下」が約4割(43.6%)で最も高く、「1週間に3~6回」が約3割(33.0%)、「1週間に7回以上」は1割未満(5.3%)であった。「まったくしていない」は12.8%であった。

参加後の1週間の実施頻度は「1週間に2回以下」が約4割(44.7%)で最も高く、「1週間に3~6回」が約3割(33.0%)、「1週間に7回以上」は1割未満(5.3%)であった。「まったくしていない」は10.6%であった。

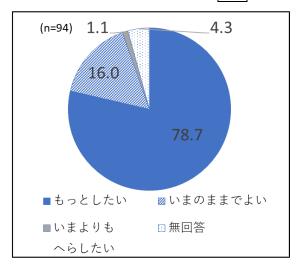
実施頻度は、参加前後で、ほとんど変化がみられなかった。

・運動あそび出前講座参加前後の運動・スポーツ・運動あそびの実施時間(Q3、4子ども) 再掲



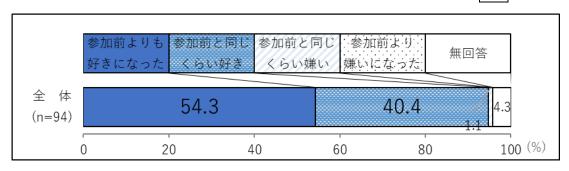
参加前の1日の実施時間は「30分以上1時間未満」が35.1%で最も高く、「1時間以上2時間未満」と「30分未満」25.5%と続く。「2時間以上」は1割未満(6.4%)と少ない。参加後の1日の実施時間は「1時間以上2時間未満」が参加前の25.5%から参加後は28.7%と3.2ポイント増加した。一方、『1時間未満』(「30分以上1時間未満」と「30分未満」の合計)が参加前60.6%から参加後55.3%へと5.3ポイント減少した。参加前後を比べると、1日の実施時間は上昇傾向がみられた。

・運動あそび出前講座参加後の運動意向(Q5子ども)再掲



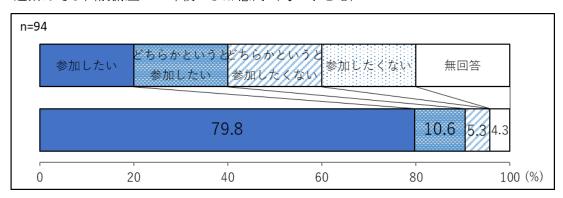
参加後の運動意向は78.7%が「もっとしたい」と回答した。「いまのままでよい」16.0%、「いまよりもへらしたい」1.1%であった。

・運動あそび出前講座参加前後の運動に対する気持ちの変化(Q6子ども) 再掲



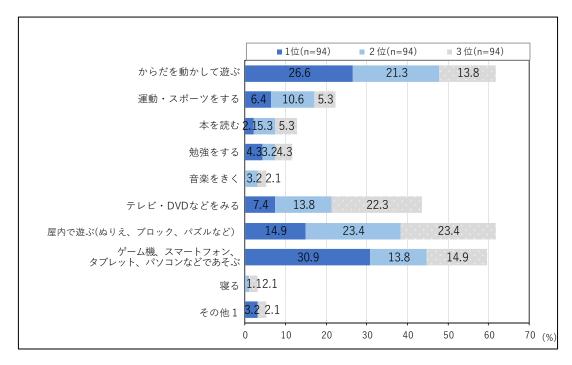
「参加前よりも好きになった」 54.3% 、「参加前と同じくらい好き」 40.4%、合計 94.7%が好きになったと回答した。

・運動あそび出前講座への今後の参加意向(Q7子ども)



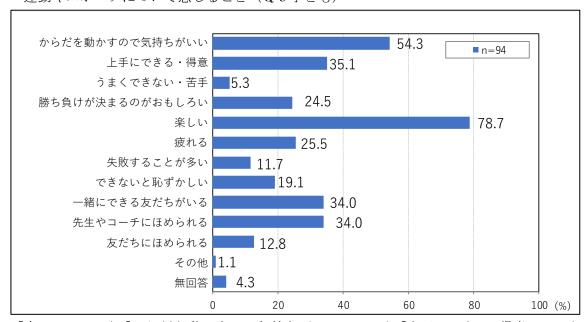
約 8 割(79.8%)が「参加したい」と回答した。「どちらかというと参加したい」は約 1 割 (10.6%)、「どちらかというと参加したくない」5.3%、「参加したくない」は 0 件であった。

・自由時間にやりたいこと1位~3位(Q8子ども)



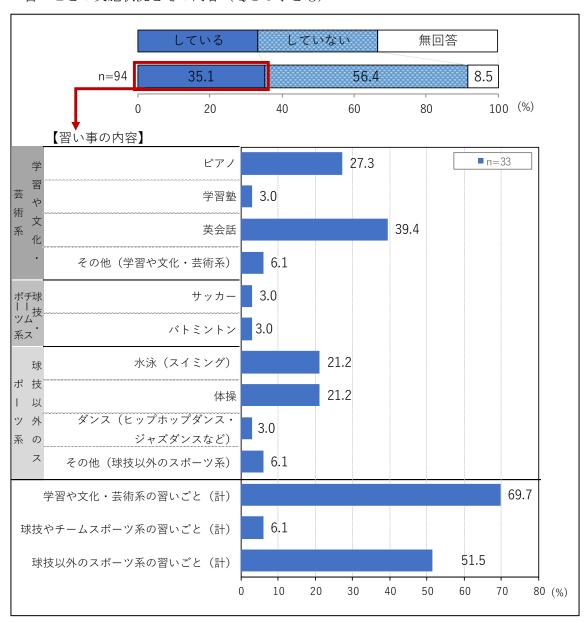
1 位に選ばれた項目は、「ゲーム機、スマートフォン、タブレット、パソコンなどであそぶ」 30.9%が最も高く、次いで「からだを動かして遊ぶ」 26.6%の順であった。

・運動やスポーツについて感じること(Q9子ども)



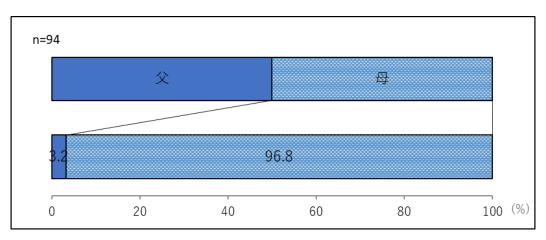
「楽しい」78.7%、「からだを動かすので気持ちがいい」54.3%、「上手にできる・得意」35.1% などが上位にあがった。

・習いごとの実施状況とその内容(Q10子ども)



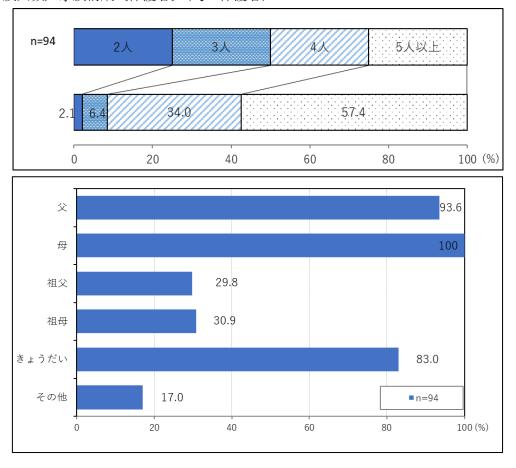
35.1%の園児が習い事をしており、習いごとのジャンルは『学習や文化・芸術系』が 69.7%、『球技以外のスポーツ系』が 51.5%、『球技やチームスポーツ系』が 6.1%であった。具体的な習い事をみると「英会話」 39.4%、「ピアノ」 27.3%、「水泳(スイミング)」「体操」 21.2%などが多い。

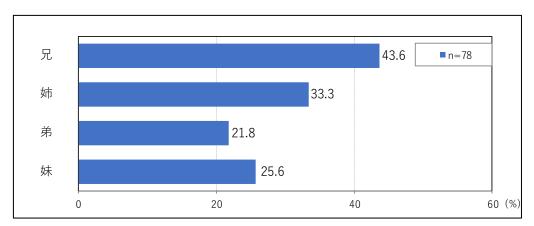
・対象の子どもとの続柄 [保護者] (Q1保護者)



運動あそび講座に参加した子どもとの続柄は「母」96.8%が圧倒的に多く、「父」は 3.2% と 1 割未満であった。

·家族人数/家族構成〔保護者〕(Q2保護者)

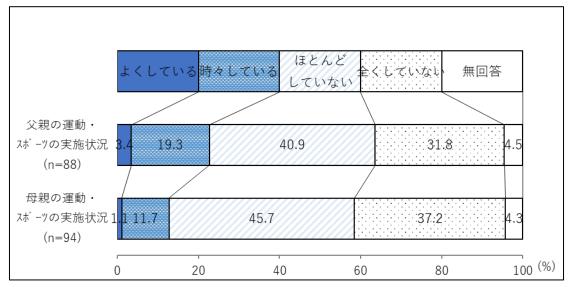




家族人数は「5人以上」が約6割(57.4%)で、「4人」が約3割(34.0%)であった。 家族構成は、父母に加えて、「きょうだい」がいる者が83.0%であった。「祖父」29.8%や 「祖母」30.9%と同居している者は約3割であった。

兄弟姉妹については、「兄」43.6%および「姉」33.3%が、「弟」21.8%および「妹」25.6% より多かった。

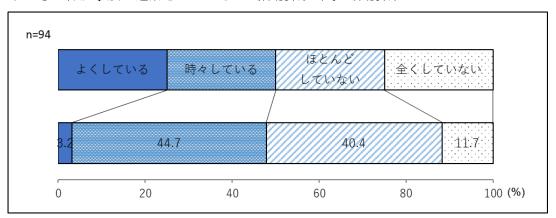
・父母の運動・スポーツ実施状況〔保護者〕(Q2-1保護者)



父親は、『している』(「よくしている」 3.4% と「時々している」 19.3% の合計)は 22.7% で、『していない』(「ほとんどしていない」 40.9% と「全くしていない」 31.8% の合計)が 72.7% で、『していない』が『している』を上回った。

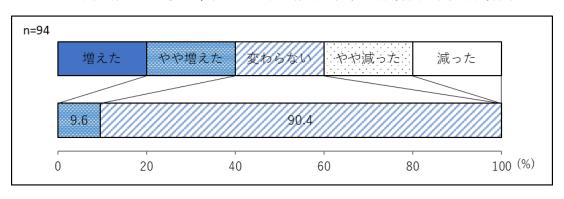
母親は、『している』(「よくしている」1.1%と「時々している」11.7%の合計)が12.8%、『していない』(「ほとんどしていない」45.7%と「全くしていない」37.2%の合計)が82.9%であった。特に母親の運動・スポーツの実施率の低さが目立つ結果となった。

・子どもは普段家族と運動をしているか〔保護者〕(Q3保護者)



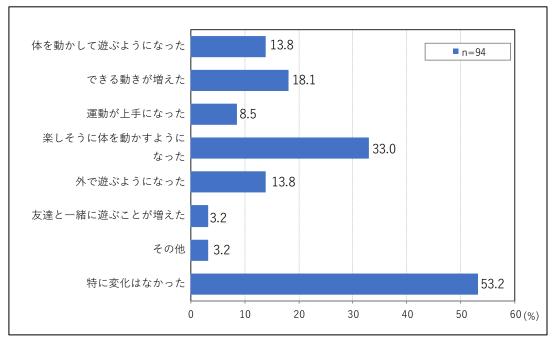
「時々している」が 44.7%で最も高く、「ほとんどしていない」40.4%、「まったくしていない」 11.7%と続き、「よくしている」は 1 割未満(3.2%)であった。

・運動あそび出前講座参加後の家族と運動する機会の変化 [保護者] (Q4保護者)



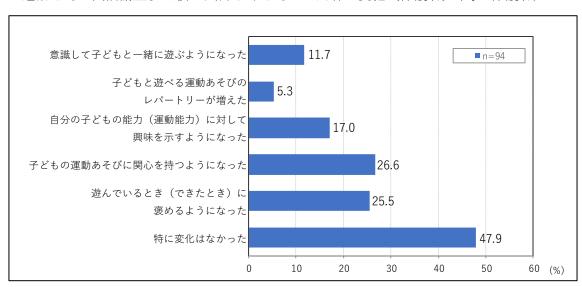
「やや増えた」9.6%、「変わらない」90.4%と、参加後の家族と運動する機会にはほとんど変化はみられなかった。

・運動あそび出前講座参加後の子どもの様子の変化〔保護者〕(Q5保護者)



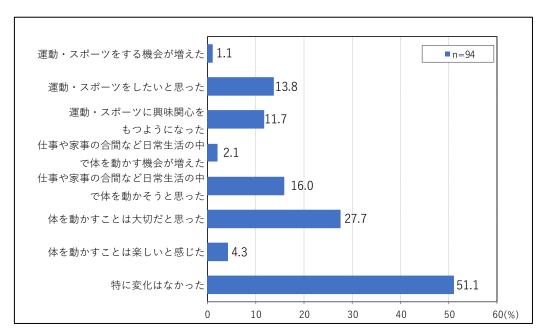
「特に変化はなかった」を除くと、「楽しそうに体を動かすようになった」33.0%、「できる動きが増えた」18.1%などが上位にあがった。

・運動あそび出前講座参加後の気持ちやあそびの内容の変化〔保護者〕(Q6保護者)



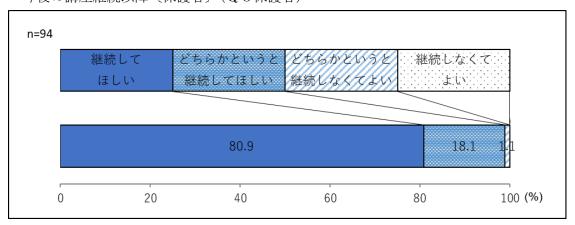
「子どもの運動あそびに関心を持つようになった」26.6%「遊んでいるとき(できたとき)に褒めるようになった」25.5%などが上位にあがった。

・保護者自身の運動に対する行動や意識の変化〔保護者〕(Q7保護者)



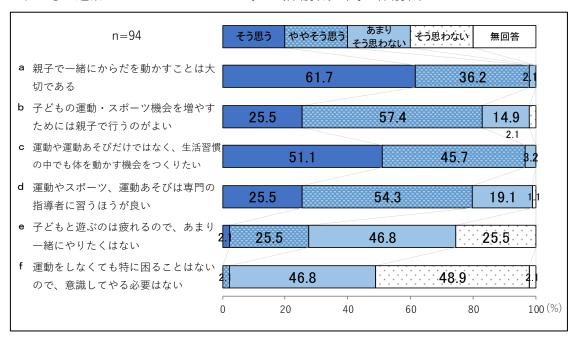
「体を動かすことは大切だと思った」27.7%、「仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った」16.0%、「運動・スポーツをしたいと思った」13.8%などが上位にあがった。

・今後の講座継続以降〔保護者〕(Q8保護者)



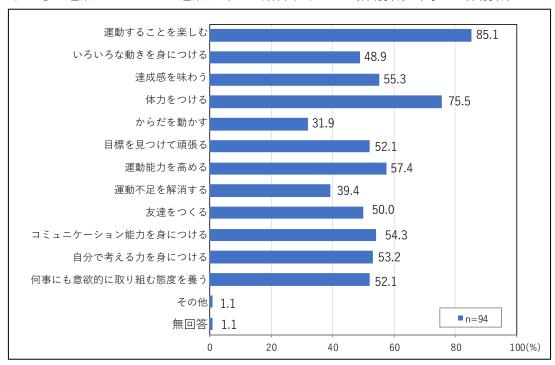
「継続してほしい」が8割(80.9%)を占め、「どちらかというと継続してほしい」18.1%と合わせると、99.0%が運動あそび出前講座の継続を希望しているという結果となった。

・子どもの運動・スポーツについての考え [保護者] (Q9保護者)



「そう思う」の割合は、「親子で一緒にからだを動かすことは大切である」61.7%、「運動や 運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも体を動かす機会をつくりたい」51.1%が高い。

・子どもの運動・スポーツ・運動あそびに期待すること〔保護者〕(Q10保護者)



「運動することを楽しむ」85.1%が最も高く、次いで「体力をつける」75.5%があがった。以下、「運動能力を高める」57.4%「達成感を味わう」55.3%、「コミュニケーション能力を身につける」54.3%が続く。

3. 乳幼児健診時の親子運動あそび講座に参加した方向けの調査票

回収率:100%(82/82人)

「運動あそび」「産後ママのボディケア」プチ講座アンケート

Q1 本講座に参加したお子様の年齢と性別を教えてください。

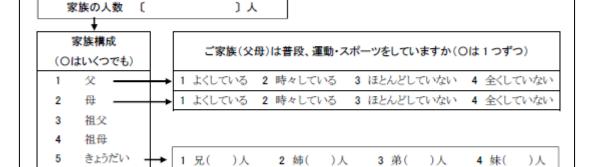
お子様の年齢:()歳()か月 性別(Oは1つ): 1 男 2 女

Q2 あなたは、本講座に参加したお子様からみて、次のどなたにあてはまりますか。(Oは1つ)

1 父 2 母 3 その他(具体的に:

Q3 本講座に参加したお子様の家族についておたずねします。

何人家族ですか。本講座に参加したお子様を含めた、ご家族(世帯員)の人数をご記入ください。ま た、家族構成についてお子様からみた続柄でお答えください。きょうだいがいる場合は人数もご記入 ください。



- Q4 あなたは運動・スポーツを行うことが好きですか。(Oは1つ)
- 1 好き 2 どちらかというと好き 3 どちらかというと嫌い

その他 (

- 4 嫌い

- Q5 本講座への満足度をお答えください。(Oは1つ)
- 1 満足
- 2 どちらかというと満足 3 どちらかというと不満 4 不満
- Q6 あなたは、本講座のように乳幼児健診の待ち時間を活用した運動あそび講座等を今後も実施して ほしいですか。(Oは1つ)

またその理由があれば空欄にお書きください。(任意)

- 実施してほしい
- 2 どちらかというと実施してほしい
- 3 どちらかというと実施しなくてよい
- 4 実施しなくてよい

- Q7 あなたは、本講座に参加してから、あなた自身の運動やスポーツなど体を動かすことに対する意識 に変化はありましたか。(Oはいくつでも)
 - 1 運動やストレッチ、スポーツなど体を動かしたいと思った
 - 2 運動やストレッチ、スポーツなど体を動かすことに興味関心をもつようになった
 - 3 仕事や家事・育児の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った
 - 4 体を動かすことは大切だと思った
 - 5 体を動かすことは楽しいと感じた
 - 6 その他(具体的に:
 - 7 特に変化はなかった

「産後ママのボディケア」プチ講座(3~5 か月児健診)に参加した方へおうかがいします

- Q8「産後ママのボディケア」プチ講座に参加して、あなた自身の身体や心に変化を感じましたか。 (〇はいくつでも)
 - 1 身体全体が良好な状態になったと感じる
 - 2 肩こり・授乳疲れ・腰痛などが緩和された
 - 3 身体の痛みやだるさが軽くなった
 - 4 ストレスの解消につながった・とても良い気分転換になった
 - 5 自分自身の身体をいたわろうと思った
 - 6 出産や育児による身体の変化に気づけた
 - 7 その他(具体的に:
 - 8 特に変化は感じなかった

「運動あそび」プチ講座(おたんじょう相談・2歳6か月児歯科検診)に参加した方へおうかがいします

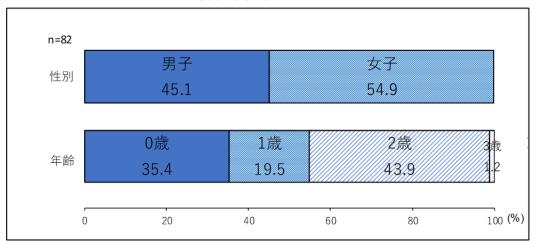
- Q9 「運動あそび」プチ講座に参加して、あなたの運動あそびに対する意識に変化はありましたか。 (○はいくつでも)
 - 1 親子で体を動かすことは大切だと思った
 - 2 子どもの運動・スポーツ機会を増やすためには親子で行うのが良いと思った
 - 3 運動や運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも体を動かす機会をつくりたい
 - 4 子どもとの運動あそびを積極的に行いたい
 - 5 乳幼児のころから運動あそびに取り組むことは子どもの心身の成長にとって大切だと思った
 - 6 その他(具体的に:
 - 7 特に変化はなかった

アンケートは以上です。 ご多用中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

本調査票は、お配りした封筒(切手不要)にて、 アンケート用紙受け取り後、1週間以内を目途に ご返信いただきますよう、お願い申し上げます。

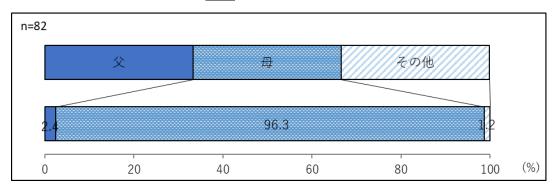
【乳幼児健診時の親子運動あそび講座に参加した方向けの調査結果詳細】

・講座に参加した子どもの性別・年齢(Q1)



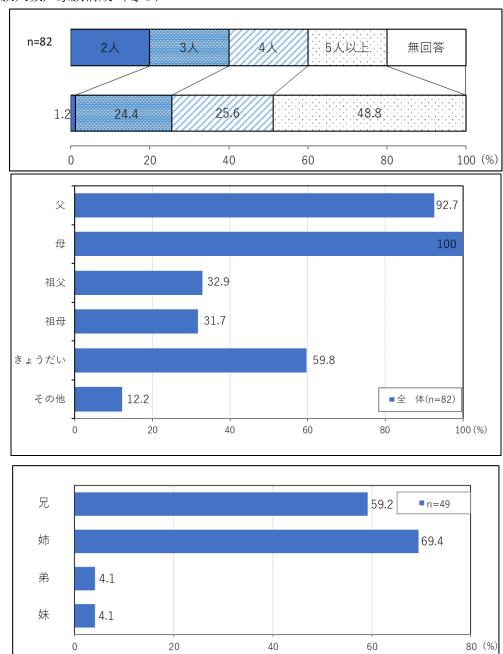
講座に参加した子どもの性別は「男子」45.1%「女子」54.9%と女子の参加者が多い。年齢は、「0歳」35.4%、「1歳」19.5%、「2歳」43.9%、「3歳」1.2%であった。

・対象の子どもとの続柄(Q2) 再掲



子どもとの続柄は「父」2.4%、「母」96.3%と母が大半を占めた。

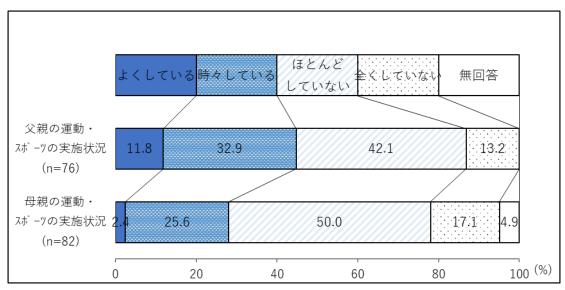
·家族人数/家族構成(Q3)



参加者の家族人数は「3人」が24.4%、「4人」が25.6%、「5人以上」が48.8%であった。 家族構成は、父母のほかに、「祖父」32.9%や「祖母」31.7%と同居している者がそれぞれ約3割、「きょうだい」がいる者が約6割(59.8%)であった。

兄弟姉妹については、参加した子どもの年齢は2歳以下が中心であるため、「兄」59.2%および「姉」69.4%が、「弟」「妹」(共に4.1%)よりも多かった。

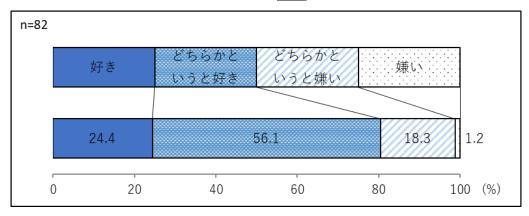
・父母の運動・スポーツ実施状況(Q3-1)



父親の場合は、『している』44.7%(「よくしている」11.8%と「時々している」32.9%の合計)、『していない』55.3%(「ほとんどしていない」42.1%と「全くしていない」13.2%の合計)と回答した。

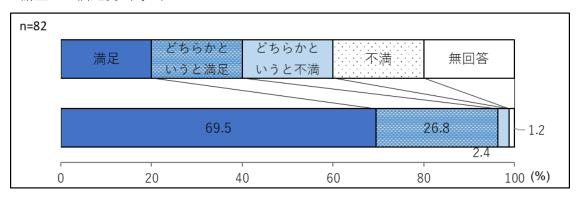
母親の場合は、「よくしている」は 2.4%と少なく、「時々している」が 25.6%、『していない』(「ほとんどしていない」50.0%と「全くしていない」17.1%の合計)が 67.1%であった。 運動・スポーツをしていると回答した割合は父親が約 4 割、母親は約 3 割となり、父親の方が実施率は高い。

・運動・スポーツを行うことが好きか(Q4) 再掲



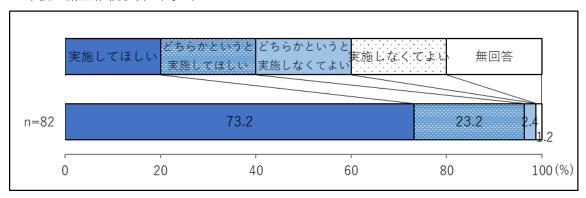
講座に参加した保護者の運動・スポーツの好嫌度は、「好き」24.4%「どちらかというと好き」56.1%を合わせると『好き』が80.5%と全体の5分の4を占める。一方「どちらかというと嫌い」は18.3%「嫌い」は1.2%であった

・講座への満足度(Q5)



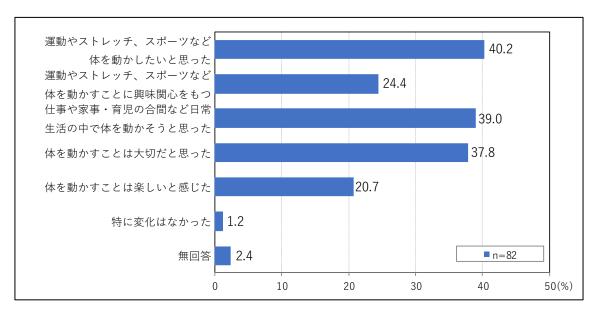
「満足」69.5%、「どちらかというと満足」26.8%で、合わせて96.3%が『満足』と回答した。

・今後の講座継続以降(Q6)



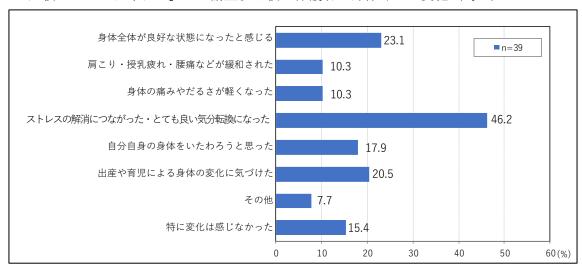
「実施してほしい」が 73.2%と 7割以上を占め、「どちらかというと実施してほしい」 23.2% と合わせると 96.4%に達し、参加者のほぼ全員が今後も実施してほしいと回答した。

・講座参加後の保護者自身の運動に対する意識の変化(Q7)



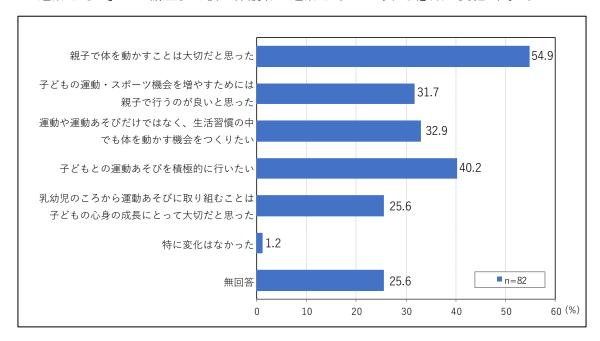
「運動やストレッチ、スポーツなど体を動かしたいと思った」40.2%が最も高く、以下、「仕事や家事・育児の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った」39.0%、「体を動かすことは大切だと思った」37.8%が続く。

・「産後ママのボディケア」プチ講座参加後の保護者の身体や心の変化(Q8)



「ストレスの解消につながった・とても良い気分転換になった」46.2%、「身体全体が良好な状態になったと感じる」23.1%、「出産や育児による身体の変化に気づけた」20.5%などが上位にあがった。

・「運動あそび」プチ講座参加後の保護者の運動あそびに対する意識の変化(Q9)



「親子で体を動かすことは大切だと思った」が 54.9%で最も高く。以下、「子どもとの運動 あそびを積極的に行いたい」 40.2%、「運動や運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも 体を動かす機会をつくりたい」 32.9%、「子どもの運動・スポーツ機会を増やすためには親子で行うのが良いと思った」 31.7%、「乳幼児のころから運動あそびに取り組むことは子どもの心身の成長にとって大切だと思った」 25.6%の順であった。

4. 子育て支援センター・スポーツ交流館の親子運動あそび講座に参加した方への調査票

回収率:37.7%(26/69人)

子育て支援センター・スポーツ交流館 運動あそび講座アンケート

Q1 運動あそび講座に参加したお子様の年齢と性別を教えてください。

お子様の年齢:()歳()か月

性別 (Oは1つ): 1 男 2 女 3 答えたくない

Q2 運動あそび講座に参加したお子様は、この講座への参加は何回目ですか。(Oは1つ)

1 はじめて 2 2回目 3 3回目 4 4回以上

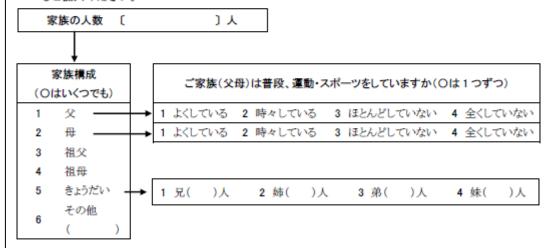
Q3 あなたは、運動あそび講座に参加したお子様からみて、次のどなたにあてはまりますか。(○は1つ)

1 父 3 祖父 5 その他(具体的に:)

2 母 4 祖母

Q4 運動あそび講座へ参加したお子様の家族についておたずねします。

何人家族ですか。運動あそび講座に参加したお子様を含めた、ご家族(世帯員)の人数をご記入ください。また、家族構成についてお子様からみた続柄でお答えください。きょうだいがいる場合は人数 もご記入ください。



- Q5 運動あそび講座へ参加したお子様は、あなたご自身を含めご家族**と普段、運動・スポーツ・運動 あそびをしていますか。※お子様のきょうだいは除く(Oは1つ)
 - 1 よくしている 2 時々している
- 3 ほとんどしていない 4 まったくしていない
- Q6 あなたのお子様は、運動あそび講座に参加してから、あなたご自身を含めご家族*と運動・スポーツ・運動あそびをする機会は増えましたか。※お子様のきょうだいは除く(Oは1つ)
 - 1 増えた
- 2 やや増えた
- 3 変わらない
- 4 やや減った
- 5 減った

Q 7	運動あそび講座への満足度をお答えください。(〇は1つ)
1	満足 2 どちらかというと満足 3 どちらかというと不満 4 不満
スポ	ーツ交流館での運動あそび講座に参加した方におうかがいします
Q 8	お子様が運動あそび講座に参加してから、ご家庭でのお子様の運動あそびに関する様子に変化は
	ありましたか。(Oはいくつでも)
1	体を動かして遊ぶようになった 5 外で遊ぶようになった
2	できる動きが増えた 6 友達と一緒に遊ぶことが増えた
3	運動や動きが上手になった 7 その他(具体的に:)
4	楽しそうに体を動かすようになった 8 特に変化はなかった
全員	におうかがいします
Q 9	お子様とご一緒に運動あそび講座に参加してから、あなたは、ご家庭でお子様と一緒に遊ぶ際の気
	持ちや、あそびの内容・あそび方について変化はありましたか。(Oはいくつでも)
1	意識して子どもと一緒に遊ぶようになった
2	子どもと遊べる運動あそびのレパートリーが増えた
3	自分の子どもの能力(運動能力)に対して興味を示すようになった
4	子どもの運動あそびに関心を持つようになった
5	遊んでいるとき(できたとき)に褒めるようになった
6	その他(具体的に:)
7	特に変化はなかった
Q 1	お子様とご一緒に運動あそび講座に参加してから、あなたご自身の運動・スポーツに対する行動
	や意識に変化はありましたか。(Oはいくつでも)
1	運動・スポーツをする機会が増えた
2	運動・スポーツをしたいと思った
3	運動・スポーツに興味関心をもつようになった
4	仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かす機会が増えた
5	仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った
6	体を動かすことは大切だと思った
7	体を動かすことは楽しいと感じた
8	その他(具体的に:)
9	特に変化はなかった
Q 1	1 運動あそび講座に参加したお子様の様子をみて、今後も子育て支援センター・スポーツ交流館で
	動あそび講座を継続してほしいと思いましたか。(〇は1つ)
また	その理由があれば空欄にお書きください。(任意)
1	理由:
	どちらかというと継続してほしい
	どちらかというと継続しなくてよい
4	継続しなくてよい

Q 1 2 あなたは、お子様の運動・スポーツについてどのような考えをお持ちですか。 (Oはそれぞれ 1 つずつ)

	2.5円と	PP	あまりそう	そう思
	そう思う	そう思う	思わない	わない
a 親子で一緒にからだを動かすことは大切である	1	2	3	4
b 子どもの運動・スポーツ機会を増やすためには親子で行うのがよい	1	2	3	4
運動や運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも体を動かす機会をつくりたい	1	2	3	4
d 運動やスポーツ、運動あそびは専門の指導者に習うほうが良い	1	2	3	4
e 子どもと遊ぶのは疲れるので、あまり一緒にやりたくはない	1	2	3	4
f 運動をしなくても特に困ることはないので、意識してやる必要はない	1	2	3	4

- Q 1 3 あなたは、お子様が運動やスポーツ・運動あそびをすること(はじめること)に何を期待していますか。(Oはいくつでも)
 - 1 運動することを楽しむ
 - 2 いろいろな動きを身につける
 - 3 達成感を味わう
 - 4 体力をつける
 - 5 からだを動かす
 - 6 目標を見つけて頑張る
 - 7 運動能力を高める

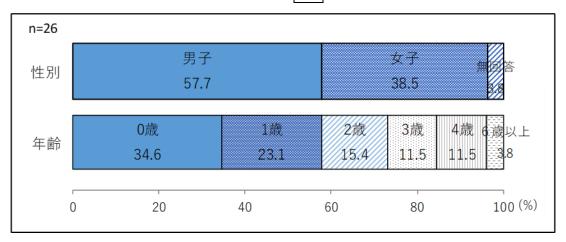
- 8 運動不足を解消する
- 9 友達をつくる
- 10 コミュニケーション能力を身につける
- 11 自分で考える力を身につける
- 12 何事にも意欲的に取り組む態度を養う
- 13 その他(具体的に:

アンケートは以上です。 ご多用中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

本調査票は、お配りした封筒(切手不要)にて、 アンケート用紙受け取り後、1週間以内を目途に ご返信いただきますよう、お願い申し上げます。

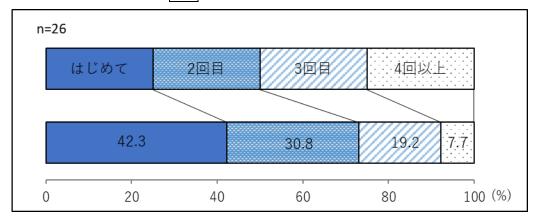
【子育て支援センター等の親子運動あそび講座に参加した方への調査結果詳細】

・講座に参加した子どもの性別と年齢(Q1) 再掲



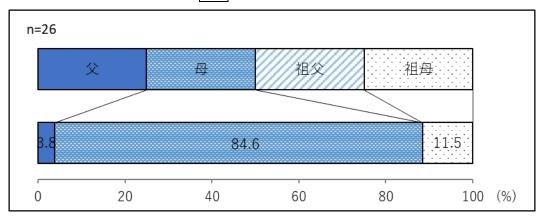
講座に参加した子どもの性別は「男子」57.7%「女子」38.5%と男子の参加者が多い。年齢は、低い年齢ほど割合が高く、「0歳」34.6%、「1歳」23.1%、「2歳」15.4%、「3歳」11.5%、「4歳」11.5%「6歳以上」3.8%であった。

・講座への参加回数(Q2)再掲



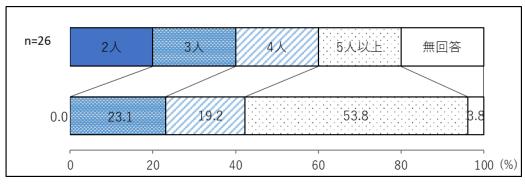
運動あそび講座への参加は、「はじめて」が 42.3%で最も多く、「2 回目」が 30.8%、「3 回目」が 19.2%、「4 回以上」が 7.7%であった。

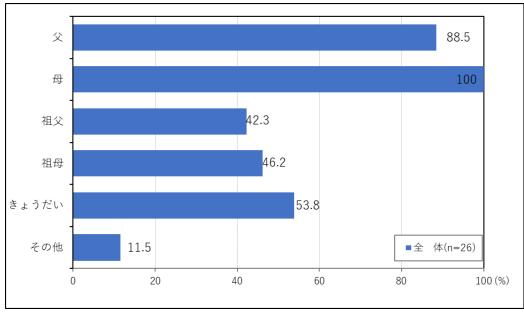
・対象の子どもとの続柄(Q3) 再掲

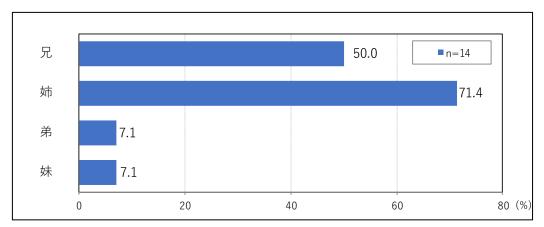


運動あそび講座に参加した子どもとの続柄は「母」が 84.6%で大半を占め、次いで「祖母」が 11.5%であった。「父」は 3.8%と少ない。

·家族人数/家族構成(Q4)



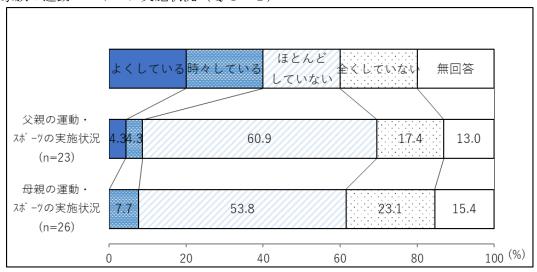




参加者の家族人数は『4 人以下』(計 42.3%) と「5 人以上」(53.8%)が約半数であった。家族構成は、父母に加えて、「祖父」42.3%や「祖母」46.2%と同居している者がそれぞれ約 4 割、「きょうだい」がいる者が約 5 割(53.8%)であった。

兄弟姉妹については、「兄」50.0%および「姉」71.4%が、「弟」および「妹」(ともに7.1%)より多かった。

・家族の運動・スポーツ実施状況(Q4-1)

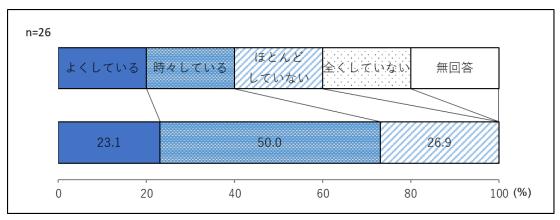


父親は、『している』(「よくしている」4.3%と「時々している」4.3%の合計)は8.6%と1割未満で、78.3%は『していない』(「ほとんどしていない」60.9%と「全くしていない」17.4%の合計)と回答した。

母親は、「よくしている」はおらず「時々している」が 7.7%、『していない』(「ほとんどしていない」53.8%と「全くしていない」23.1%の合計)が 76.9%であった。

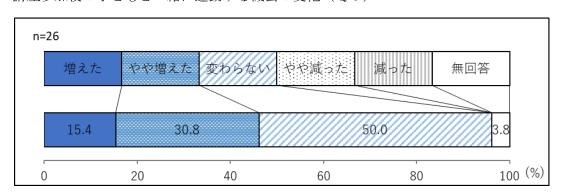
父親・母親ともに、普段の運動・スポーツの実施率は1割未満と低い。

・子どもは普段家族と運動をしているか(Q5)



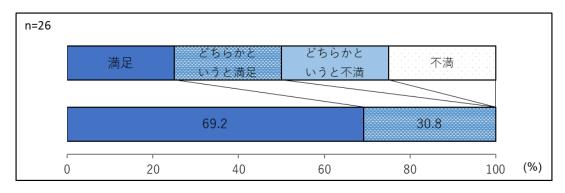
「よくしている」23.1%、「時々している」50.0%、「ほとんどしていない」26.9%であった。

・講座参加後の子どもと一緒に運動する機会の変化(Q6)



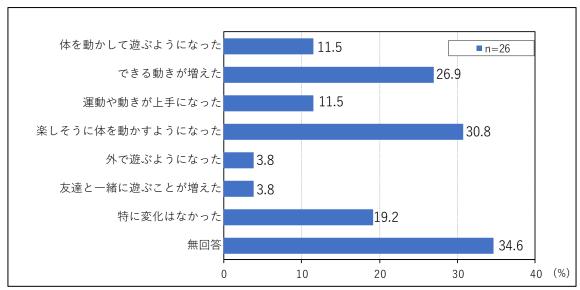
運動あそび講座参加後、運動・スポーツ・運動あそびの機会の増減についてたずねたところ、「増えた」15.4%、「やや増えた」30.8%で、半数近く(46.2%) が講座参加後に運動の機会が増えたと回答した。

・講座への満足度(Q7)



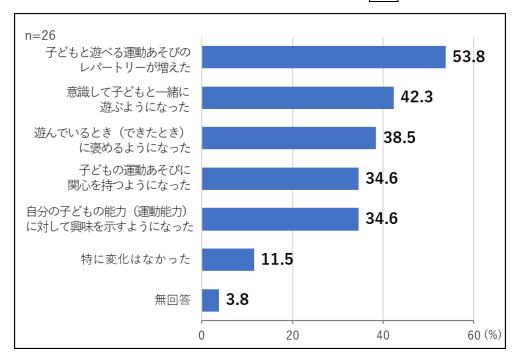
約7割(69.2%) が「満足」、約3割(30.8%)が「どちらかというと満足」と回答した。「不満」「どちらかというと不満」という回答はなかった。

・講座参加後の子どもの家庭での様子の変化(Q8)



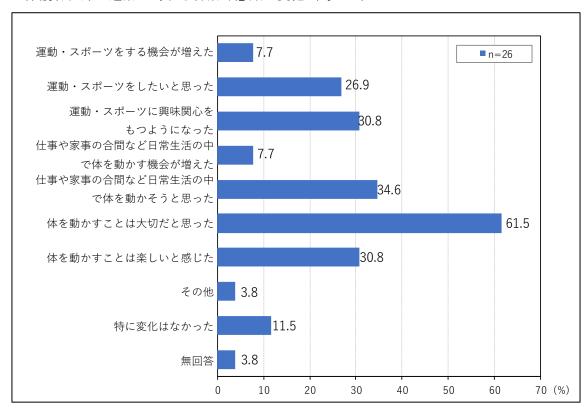
運動あそび講座参加後の子どもの変化としては、「楽しそうに体を動かすようになった」 30.8%、「できる動きが増えた」 26.9%などが多く、次いで「体を動かして遊ぶようになった」「運動や動きが上手になった」(ともに 11.5%) があがった。

・講座参加後の保護者の気持ちやあそびの内容の変化(Q9) 再掲



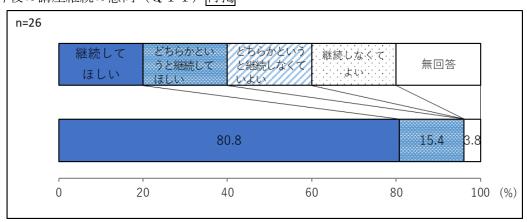
「子どもと遊べる運動あそびのレパートリーが増えた」53.8%が最も高く、以下、「意識して子どもと一緒に遊ぶようになった」42.3%、「遊んでいるとき(できたとき)に褒めるようになった」38.5%、「自分の子どもの能力(運動能力)に対して興味を示すようになった」「子どもの運動あそびに関心を持つようになった」(ともに34.6%)の順であった。

・保護者自身の運動に対する行動や意識の変化(Q10)



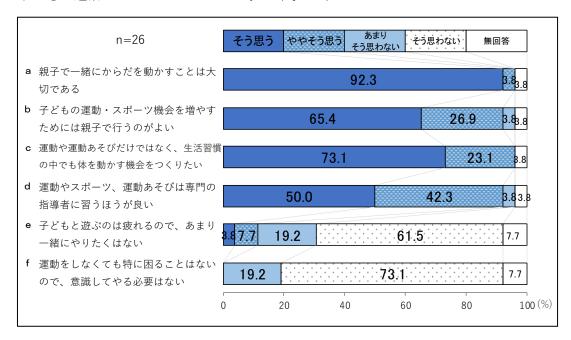
「体を動かすことは大切だと思った」61.5%が最も高く、以下、「仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かそうと思った」34.6%、「運動・スポーツに興味関心をもつようになった」、「体を動かすことは楽しいと感じた」(ともに30.8%)、「運動・スポーツをしたいと思った」26.9%が続く。一方、「運動・スポーツをする機会が増えた」や「仕事や家事の合間など日常生活の中で体を動かす機会が増えた」はともに7.7%と低く、意識を高めるきっかけとはなったが、実際の行動に移した人は少ないという結果となった。

・今後の講座継続の意向(Q11) 再掲



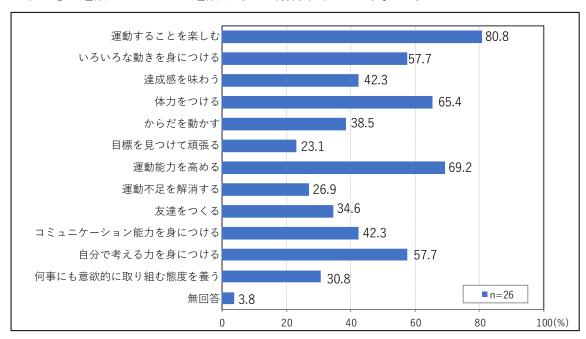
「継続してほしい」が 8 割(80.8%)を占め、「どちらかというと継続してほしい」15.4%と合わせると参加者のほぼ全員が運動あそび講座を継続してほしいと思っている。

・子どもの運動・スポーツについての考え(Q12)



「そう思う」の割合は「親子で一緒にからだを動かすことは大切である」92.3%、「運動や 運動あそびだけではなく、生活習慣の中でも体を動かす機会をつくりたい」73.1%が高い。

・子どもの運動・スポーツ・運動あそびに期待すること(Q13)



「運動することを楽しむ」80.8%が最も高く、次いで「運動能力を高める」69.2%と「体力をつける」65.4%が6割台であった。以下、「いろいろな動きを身につける」「自分で考える力を身につける」(ともに57.7%)、「達成感を味わう」「コミュニケーション能力を身につける」(ともに42.3%)などが比較的多くあげられた。

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、(公財) 笹川スポーツ財団が実施した令和2年度「Sport in Life 推進プロジェクト (スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承 認手続きが必要です。